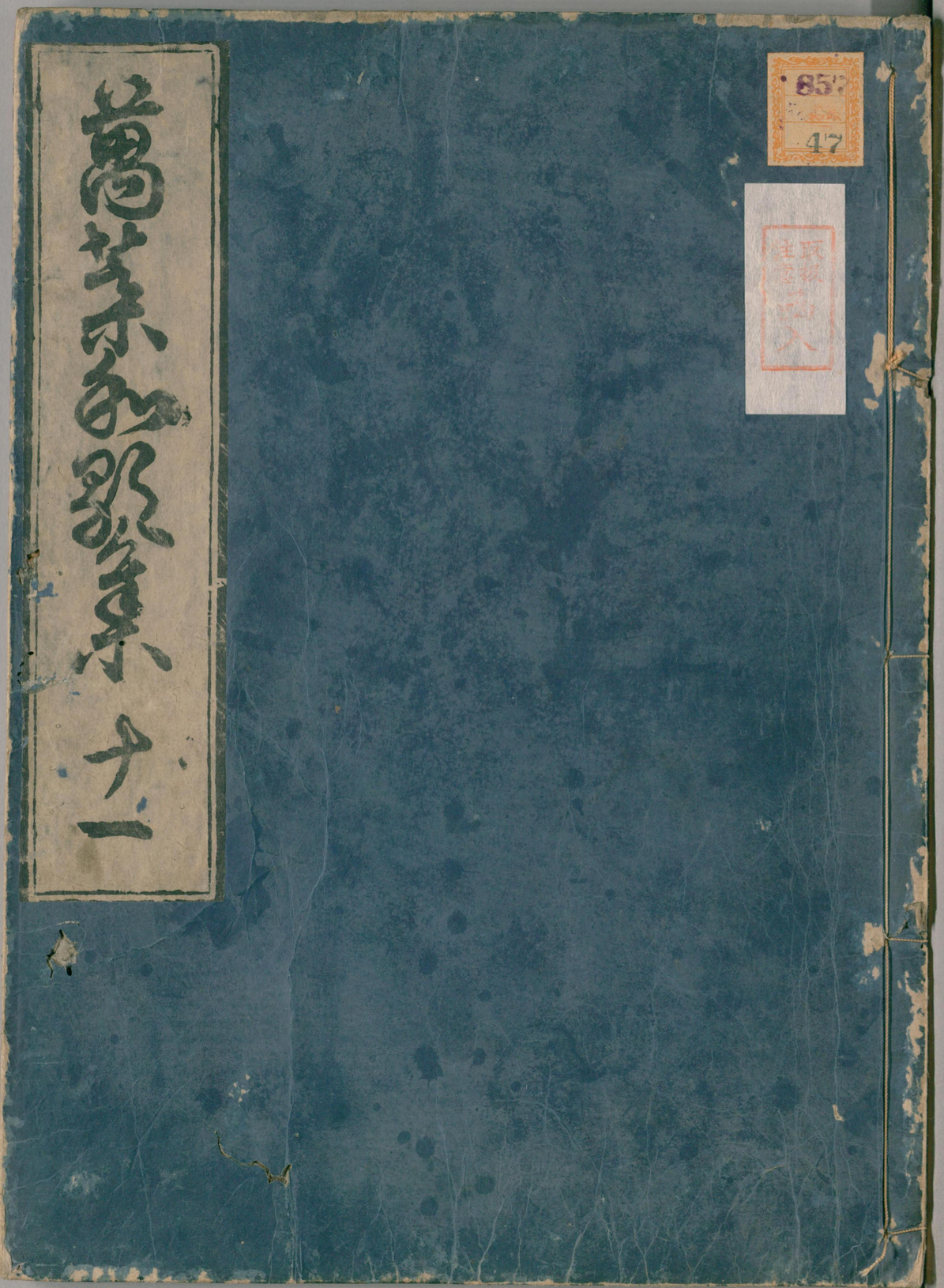

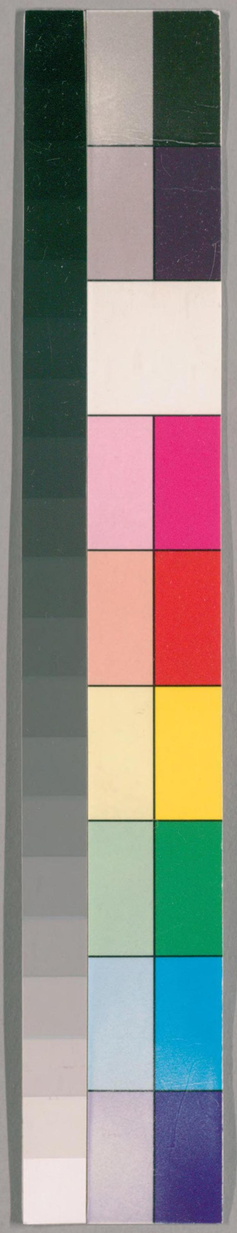

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

旋頭　旋ハ回旋之頭ハ首尾之三十六人集中ニハ假名ニテカウベニメクラス哥ト書カケリ常ノ哥ニ五文字ニモアレ七文字ニモアレ下句ニ
一句ヲ加ヘテ上下各三句アルハ下ノ句ノ体上ノ句ニカヘル心也凡頭尾ト云ニ三ノ様有ヒトツニハ初ノ五文字ヲ頭トイヒ終ノ七文字ヲ尾ト云
濱成式ニ査体七首ヲ出ス中ニ第三無頭有尾第三無頭有尾　神日本磐余彦天皇撃梟帥哥云アニミ木ノ
ヒタリロモノトナヒツノトハイヘトモロタムカヒモセス　私日本紀道臣命哥也是サレトモ四句ヲハ通シテ尾トスルカハレハノ五文字ヲ頭トイヘリ
トイヘリ第二ノ猿尾第四ノ列尾ハ結句ニウキテイヘル第五ヲ尾トスフタツニハ上ノ句ヲ頭トシ下ノ句ヲ尾トス　式云五有頭无尾
ハ坂入姫答活目天皇哥云　ユノナミヲウヘテオホサハカレユケム　無腰以下故云無尾　第三句為腰、以下為尾　ニノ第三ノ
賀ノ上ノ句ヲ頭トスル心ニテ旋頭トハ名付タリ　此五ニ式ニ七首ノ雑体ヲ立ル中ニ第三ヲ双本トス式云三ニ双本　第三句以六句為ニ絶　第三句終字
為ニ初韻第六句ノ大神高市万呂ノ哥云白雲ノタナ引山ヘミレトアカヌカモタツナラハアサトヒコエテタヘコマシヲ　モトシテ円韻之
終字為終韻
今人韻ヲ用サレハ其儀不用ナレ双本ト名ツクルナリ上ノ句ヲ本トシ下ノ句ヲ末トメ共ニ三句アレハ末ノ句ニ相並フ心ニテ名ヲ
付タリ然レハ旋頭ニ同シ心也

萬葉集巻第十一

旋頭十七首
短哥四百七十三首　合四百九十首　庭式本歌七首

古今相聞往来歌類之上

相聞ト者多云上下ニ分テリ日本紀ニ天郎紀ノ上下アルカ如シ此相聞哥ハ男女中ニヨミカハセルニカキレリ

旋頭歌十七首
正述心緒歌百四十九首
（人丸集歌十二首　古哥集出歌五首）
寄物陳思歌三百二首　二百九十一
問答歌二十九首　二十
譬喩歌十三首

帝國圖書館
国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

屈原九歌湘夫人云荃壁紫壇云文壁壇也

新室清寧紀云顯宗紀云

二首ニテ心ヲ尽ス リ上ヲ以テ新室ヘ来ルトキハ已ニ来ルトキハ

儀千難体ヨミ人ヲ知ラセヤ ダルツマ

テリトホル 聖徳於六合之内ニ神代紀上 大日孁貴ノ

旋頭歌

ニヒムロノカ(ヤ)ヌ クサカリニ キミ(オハシ)シモタマハ子ラマ(ク)トヨリアフヲ トメヘ

新室壁草苅邇御座給根草如依逢来通女者

(新室ノ カベ ヲ草カリニ 来ヨセテ)

公隨

ニヒムロ(ガ)フムレツ(ツ)メコ(ノ)ム(ガ) タ(ノ)ナラ(ノ)モタマノゴトテリタルキミヲ シヌヒト

新室踏(来)静子之手玉鳴(又俗ニ跡ヲフムトモ如ノ新室ヲ キヨク住ツクヲ云又祝ヲ織心モ)

白世

ハツセノユ ツキガ(モト)タニワカカクセルツマアカ子 サレテレル ツキヨ ニヒト

長谷弓槻下吾隠在妻赤根刺所光月夜遍人

(弓ニ作心良木) テムカモ コメクル私 ヒトミツ ラム カ

見點鴨

一云人見豆良牟可

ヤスラヲノ オモヒミタレテ カクセルメノツマアメツチノ カヨヒテルトモアラハレメ

健男之念亂而隠在其妻天地遍難光所顯目

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

八方一云大夫乃思多鷄備氏　名國　ヤモ　マスラヲノ　オモヒタケヒテ　ノケヒ三九

恵得吾念妹者早裳死耶雖生吾邇應依人云　ウツソミト　イキノヲニワレモオモヒキ　アリノコトニ

狛錦紐片叙床落邇祁留明夜志将来得云者　コマニシキヒモノカタヘソトコニオチニケルヌレナ（泗手）

取置待　（雄ニモ此メモアリソノ兄ノ落タル）

朝戸出公足結乎閨露原早起出乍吾毛裳下　（足ノ結ノ名ノ雄略紀ニミユ今ハバキノ帯ノ事ナリ）

閨奈　（泗手）

何爲命本名永欲爲雖生吾念妹安不相　（今ノ字ニテオルニモ）

兄黍兒サンラガノ錦ノヒモトキサケテアマメハナズト只一夜ミ

息緒吾雖念人目多社吹風有數數應相物　イキノヲニワレモオモヘドヒトメオホミコソフクカゼニアラバシバシバアフベキモノヲ

人祖未通女兒居守山邊柄朝朝通公不來哀　（今ノ字ニテオルニモ）

天在一棚橋何將行稱草妻所云足莊嚴　アメニアルヒトツタナハシイカデカユカムワカクヤノツマガリトイフアシヒキノ山ノ名

開木代來背若子欲云余相狹丸吾欲云開木　（妻ニ）

代來背　（若子ヲ詔捨遺）

右十二首柿本朝臣人麿之歌集出　（サガミヨセチニアリ）

歯前多未足道乎人莫遍在乍毛公之來曲道　（守山ハミモロ山ノ名）

爲　（名所ニアラズ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

拾雜下旋ム 九

タ玉ノヲ スノスガ助キ ニ イリカヨヒ妻子 タラチ子 ノ ハ、
玉垂小簾之寸鷄吉仁入通來根足乳根之母
カ トハ ハ オセト ヘタサム サムケキアハ キノ寒
我問者風跡將申
ウチヒサス ミヤヂ ニ アリ ヒトツマユヱミタマノヲノ オモヒミタレテ
内日左須宮道爾相之人妻矣玉緒之念亂而
ヌルヨ ニ助ゾ オホキ
宿夜四曽多寸
ウナハラノ ミチニ ノリテヤ ワカコヒヲラムキホフ子ノ
海原乃路爾乘哉吾戀居名大舟之由多爾將有
ヒトノコ ユエ ニ
人兒由惠爾

拾雜下旋ム 九

玉垂 ワカコヒハミルヨシモナシ 人丸

兼テ心ナハモトヨリワスルモノナレトツテモシカラトリヨハヤクハテキノ名ヘリ 拾遺五 人丸

右五首古歌集中出

此正六首ノ内ニテハタヾコト書ルベシ 四十七首

正述心緒
タラチ子 ノ ハヽ 妙 テソキテカク ハカリス ベ ナキコト恋 イマタセナ
垂乳根乃母之手放如是許無為便事者未為
クニ キミカメシスラホレミナケクカ ヨシ日ニナリ尺ミタキヽ実ニ及ナキヲ
國 レ
ヒトノヌル 宮ノ子ル ウマイモ子ズテハ ニキヤ ニ
人所寐味宿不寐早敷八四公目尚欲嘆
キミヲ オモフニ アナニケルカモ
或本歌云公矣思爾曉來鴨 モ 无官本

コヒ ニテハコヒモシヌトヤ タマホコノミチユキヒトニヨソゲケム 新古今玉鉾ノ道行人コトツテモ絶テ程ル五月雨ノ比 拾遺ニ同
戀死戀死耶玉桙路行人事告兼
コヽロニハチヘ ニオモヘドヒトニイハヌ ワカコヒヅマソノミルヨシモカモ
心千遍雖念人不云吾戀嬬見依鴨

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

於悪四　人名

綾後撰恋二　人名カクテノミニテリ　与ヘ

凡悪五　ヨミ人知　神代紀歌用王　ツヨクタレカ亡心ナリ

是量戀物知者遠可見有物
イツトテモコヒヌトキトハアラネトモユフカタマチテコヒスヘナリ

何時不戀時雖不有夕方枉戀無乏
カクノミコヒヤワタラムタマキハルイチサカヤトヘニツヽ

是耳戀度玉切不知命歳經管
ワカノチニムマレムヒトモワカコトクコヒスラムイノチニ

吾以後所生人如我戀為道相與勿湯目
ミスラヨノウツレコヽロモワレハナレヨルヒルイハズコヒスルミチニアヒ（ヤカフ詞ニヨリテ今アワテソヤカテユメ〳〵ト傳）

健男現心吾無夜晝不云戀度
ナニセンニイノチシギナムワキモコニコヒセヌサキニテ

何為命繼吾妹不戀前死物
ヨシエ助ヤシキマサヌキミヲナニストカ命ノイトハンテ

吉惠哉不來座公何為不厭吾戀作居
夫ノ家ヲワタセハチカキウタリヲタモトホリイマヤキミストコヒツヽヲラム

見度近渡乎回今哉來座戀居
水戸本

則君ノコトセリウクヒキ

ハ　ニキヤニタカ甘ヘテカ　モタ一ホヨノミチワス　ヲレテキミガキ　一サヌ

早敷哉誰障鴨玉桙路見遺公不來座
キミカメヲミマクホリシテコノフタヨ　チ　トセノコトモワカコフルガモ

公目見欲是二夜千歳如吾戀哉
ウチヒサスミヤギノヒトハミチユケド　ワカキモフキミハタヘ　ヒトリノミ

打日刺宮道人雖滿行吾念公正一人
ヨノナカニハツ子（惡キコヲ忘ント思ヘトモカクリトハオモヘドモ　ハキスレスレズナヨコヒニ依リ）

世中常如雖念半手不忘猶戀在
ワカセコノツネノモユルニサキクイニストモ（ヌ剛ナリ）ムヒトノクルカモ

我勢古波幸座通來我告來人來鴨
アラタマノイツトセフレド　ワカコヒカ　ヤマヌ

龍玉五年雖經吾戀跡無戀不止恠
イハホスラユキトホルヘキニスラヨモコヒテフコトハノチノクヰアリ

石尚行應通建男戀云事後悔在
ヒ　タテナハヒトニリヌヘシヲノヒノチトセノコトクアルヨシモカモ

日位人可知今日如千歳有與鴨
（淚モクタル人ニリヌヘシ）　奴脫ヵ　健宮本　アリセヌカモ　アラセテニカ十

萬葉卷十一

適乖

又如ノ字女ノ字誤乎然ウハ第四ノ世年類ニテヨキノヲヌアトメト思ヘトモトヨムヘシ

六帖ヲタ〳〵父テル人名

宮本ニスヘシヲハロヒメスヘキト点セルハ誤

イツ　ツ　ヒ　イマ岩ヲ

立座態不知　雖念妹不告　間使不來
烏玉是夜莫明　朱引朝行公待苦
戀爲死爲物有者　我身千遍死反
玉響昨夕見物　今朝可戀物
中中不見有從　相見戀心益念
玉桙道不行爲有者　惻隱此有戀不相
朝影吾身成玉垣入　風所見去子故
行行不相妹故　久方天露霜沾在哉

玉坂吾見人　何有依以亦　一目見
暫不見戀吾妹　日日來　年切及
世定恃公依事繁　朱引秦不經雖隱　心異我不念
伊田何極太甚利心　及失念戀故
戀死戀死哉我妹　吾家門過行
妹當遠見者悔吾戀相依無
玉久世清河原身　秘爲齋命妹爲

序し

思依見依物有一日間忘念
君戀浦經居悔我裏紐結手徒
璞之年者竟将敷白之袖易子火忘而念哉
白細布袖小端見柄如是有戀吾爲鴨

我妹戀無之夢見吾雖念不所寐
故無吾裏紐令解人莫知及正逢
戀事意迫不得出行者山川不知來
寄物陳思
處女等乎袖振山水垣久時由念來吾等者
千早振神持在命誰爲長欲爲
石上振神杉神成戀我更爲鴨
何名負神幣帛奉者吾念妹夢谷見

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

思依見依物有一日間忘念
オモフヨリミルヨリモノハアルモノヲヒトヒヘタツルワスルトオモフナ

垣廬鳴人雖云狛錦紐解開公無
カキホナスヒトハイヘトモコマニシキヒモトキアケシキミナラナクニ

狛錦紐解開夕戸不知有命戀有
コマニシキヒモトキアケテユフヘトモシラサルイノチコヒツヽカアラム

百積船潜納八占刺母雖問其名不謂
モヽサカフネカツキイルヤウラサシハヽハトフトモソノナハイハシ

眉根削鼻鳴紐解待哉何時見念吾君
マユネカキハナヒヒモトキマチツルカイツシカミムトオモヒシワキミ

君戀浦經居悔我裏紐結手徒
キミコフトウラフレヲレハクヤシクモワカシタヒモヲユヒテタヽニ

璞之年者竟杼敷白之袖易子少忘而念哉
アラタマノトシハキフレトシキタヘノソテカヘシコヲワスレテオモヘヤ

白細布袖小端見柄如是有戀吾爲鴨
シロタヘノソテヲハツカニミシカラニカヽルコヒヲモワレハスルカモ

我妹戀無之夢見吾雖念不所寐
ワキモコニコヒテスヘナミイメニミムトワレハオモヘトイネラレナクニ

故無吾裏紐令解人莫知及正逢
ユヘナクニワカシタヒモヲトケシメテヒトニナシラセタヽニアフマテ

戀事意追不得出行者山川不知來
コフルコトナクサメカネテイテユケハヤマカハシラスキニケルカモ

寄物陳思

處女等乎袖振山水垣久時由念來吾等者
ヲトメラヲソテフルヤマノミツカキノヒサシキヨリモオモヒキワレハ

千早振神持在命誰爲長欲爲
チハヤフルカミノモタセルイノチヲモタカタメニカハナカクホリセム

石上振神杉神成戀我更爲鴨
イソノカミフルノカミスキカミナルコヒヲモワレハサラニスルカモ

何名負神幣嚮奉者吾念妹夢谷見
イカナラムナニオフカミニタムケセハワカオモフイモヲイメニタニミム

以下七首寄山

於 伊物

道後 應神紀ニ云兄媛不知今按ミチノシリフカツ山ハ備後ノ國名 云備後 吉備乃美保津 布加師云古事記ニハリマヨリ道ノロトイヘハリ 知乃之刹 保津ト云ヘリ又巻九五年夏四月今 ヨリ奥ノ吉備ヲミチノシリトヨメル 備後国安那郡置保津郡日本紀ノ穴海ハ安那郡ニアリ

アメツチトイフナノタエテアラバコソナレニワガアフコトヤマヾメ
天地言名絶有汝吾相事止

ツキミレハクニハオナジクヤマヘタテウツクシイモハヘダテタルカモ
月見國同山隔愛妹隔有鴨

クルミチハイシフムヤマヲナクモガモワガマツキミガウマツマヅクモ
來路者石踏山無鴨吾待公馬爪盡

イハ子フミカサナルヤマハアラ子ドモアハヌヒアマタコヒワタルカモ
石根踏重成山雖不有不相日數戀度鴨

ミチノシリフカツシマヤマシバラクモキミガメミ子バクルシカリケリ
路後深津嶋山暫君目不見苦有

ヤマシナノコハタノヤマヲウマハアレドカチヨリワガクナレヲオモヒカ子テ
山科強田山馬雖在歩吾來汝念不得

トヲヤマニカスミタナビキイヤトホニイモガメミステワカコフルカモ
遠山霞被益遐妹目不見吾戀

古今ノイメツラニ行テ年ヌルモノニヨミミクホシサニイサナハレツヽ

水ノヤウニカキル処ヲ後瀬ト云今言ノシツマリタルトキニ云又 天平十五年八月丁卯朝幸鴨川改名為宮川 和名尾張中島郡小塞 當麻 日本紀

涅槃経云如昼水随盡随合

拾遺十五 人丸 アライソノ コトヒシヌトモ

コノカハノセヾノシキナミシク〳〵ニイモガコヽロニノリニケルカモ
是川瀬瀬敷浪布布妹心乗在鴨

チハヤヒトウヂノワタリノハヤキセニアハズアリトモノチモワカツマ
千早人宇治度速瀬不相有後我孋

ハシキヤシアハヌコユヘニイタヅラニコノカハノセニモノスソヌラス
早敷哉不相子故徒是川瀬裳襴潤

コノカハノミナワサカマキユクミヅノコトカヘサズソオモヒソメテシ
是川水阿和逆纒行水事不反思始為

カモカハノノチセシヅケミノチモアハムイモニハワレハイマナラズトモ
鴨川後瀬静後相妹者我雖不今

コトニイデヽイハヾユヽシミヤマカハノタギツコヽロヲセカヘタルカモ
言出云忌忌山川之當都心塞耐在

ミヅノウヘニカズカクゴトキワガイノチイモニアハムトウケヒツルカモ
水上如數書吾命妹相受日鶴鴨

アリソコシホカユクナミノホカゴヽロワレハオモハジコヒテシヌトモ
荒礒越外往波乃外心吾者不思戀而死鞆

国立国会図書館 タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

アメツチトイフナノタエテアラバコソナレニワガアフコトモヤミナメ
天地言名絶有汝吾相事止

ツキミレハクニハオナジゾヤマヘダテウツクシイモハヘダテタルカモ
月見國同山隔愛妹隔有鴨

クルミチハイシフムヤマモナクモガモワガマツキミガウマツマヅクモ
絡路者石踏山無鴨吾待公馬爪盡

イハネフミカサナルヤマハアラネドモアハヌヒマタコヒワタルカモ
石根踏重成山雖不有不相日數戀度鴨

ミチノシリフカツミシマヤマシバラクモキミガメミネバクルシカリケリ
路後深津島山暫君目不見苦有

ヒモカヾミノトカノヤマモタガユヘカキミキマセルニヒモトカズネム
紐鏡能登香山誰故君來座在紐不開寐

ヤマシナノコハタノヤマヲウマハアレドカチヨリワガクルナヲオモヒカネテ
山科強田山馬雖在歩吾來汝念不得

トホヤマニカスミタナビキイヤトホニイモガメミズテワガコフルカモ
遠山霞被益遐妹目不見吾戀

コノカハノセヾノシキナミシクシクニイモガコヽロニノリニタルカモ
是川瀬瀬敷浪布布妹心乗在鴨

チハヤヒトウヂノワタリノハヤキセニアハズアリトモノチモワガツマ
千早人宇治度速瀬不相有後我孋

ハシキヤシアハヌコユヘニイタヅラニコノカハノセニモノスソヌラス
早敷哉不相子故徒是川瀬裳襴潤

コノカハノミナワサカマキユククミヅノコトカヘサズゾオモヒソメテシ
是川水阿和逆纒行水事不反思始為

カモカハノノチセシヅケミノチモアハムイモニハワレハケフナラズトモ
鴨川後瀬静後相妹者我雖不今

コトニイデヽイハヾユヽシミヤマカハノタギツコヽロヲセカヘタルカモ
言出云忌忌山川之當都心塞耐在

ミヅノウヘニカズカクゴトキワガイノチイモニアハムトウケヒツルカモ
水上如數書吾命妹相受日鶴鴨

アリソコシホカユクナミノホカゴヽロワレハオモハジコヒテシヌトモ
荒礒越外往波乃外心吾者不思戀而死鞆

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

アウミノウニ　オキツシラナミ　シラスドモ　イモガリトハ
淡海奥白浪雖不知妹所云七日越來
オホフネノカ　トリノウミニイカリオロシイカナル　ヒトカモノオモ　ハザラム
大舩香取海慍下何有人物不念有
オキツモノ　カクサフナミノイ　ヘ　ナミチ　ヘニ
奥藻隱障浪五百重浪千重敷戀度鴨
ニトコトハニハラクワキモ。ツヒデ　ヒクウミヨリニシテラカクシソオモフヘ
人事暫吾妹繩手引從海益深念
アフミノウミオキツシマヤマオキヘテワカ　ヘモ　イモニコトノシテキム
淡海奥島山奥儲吾念妹事繁
アフミノウミオキコクフネニイカリオロシカクシテバキミカ　コトニツワレゾ
近江海奥滂舩重下藏公之事待吾序
カクレヌノミタレ　コフレハ　スベヲナミイモカナ
隱沼從裏戀者無之妹名告忌物矣
キホツチモトハツクレドヨノナカニツキセ　ヌ　モノハコヒニサリケル
大土採雖盡世中盡不得物戀在

コモリツノ　ハイツミナルイハヲシモトホシテオモフワカコフラクハ
隱處澤泉在石根通念吾戀者
シラヌミイソベノヤマノトキハ　ナルイノチナラハヤコヒツツモ
白檀石邊山常石有命哉戀作居
アフミノウミニツクラタヽスシテコヒセシヨリハ
淡海海沈白玉不知從戀者今
シラタマヲヽキテモタレハイヤヨリハワガタマシヒムシルトキダニモ
白玉纏持從今吾玉爲知時谷
シラタマニキヨリヌスレヒトキモヒニコトハイツカヤムヘキ
白玉從手纏不忘念何畢
ヌハタマノ　ヒモノヲノ　ヘヨリテアフモノカ
烏玉閒開作貫者緒依後相物
アヒミムコ　ラヲノチ
香山爾雲位桁曳於保保思多
コヒムカモ
戀牟鴨

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

雲間從狹徑月乃於保保思久相見子等乎見
因鴨

天雲依相遠雖不相異手枕吾纏哉

春楊葛山發雲立座妹念

雲谷灼發意追見乍爲及直相

春日山雲座隱雖遠家不念公念

我故所云妹高山之峯朝霧過蒹鴨

烏玉黒髪山草小雨零敷益益所思

大野小雨被敷木本時依來我念人

朝霜消念乍何此夜明鴨

吾背兒我濱行風彌急急吉

遠妹振仰見偲是月面雲勿棚引

我妹吾矣念者真鏡照出月影所見來

久方天光月隱去何名副妹偲

若月清不見雲隱見欲宇多手比日

雲間從狹徑月乃於保保思久相見子等乎見
ヨシモカモ殺ヒ

因鴨

天雲依相遠雖不相異手枕吾纏哉
思ヘハヨオキテ異ヘ

雲谷灼發意追見乍爲及直相

春楊葛山發雲立座妹念

春日山雲座隱雖遠家不念公念

我故所云妹高山之岑朝霧過兼鴨

烏玉黒髮山草小雨零敷益益所恩

大野小雨被敷木本時依來我念人

朝霜消消念乍何此夜明鴨

吾背兒我濱行風彌急急事益不相有

遠妹振仰見偲是月面雲勿棚引

山葉追出月端端妹見鶴及寢

我妹吾矣念者眞鏡照出月影所見來

久方天光月隱去何名副妹偲

若月清不見雲隱見欲宇多手比日

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

我背兒爾吾戀居者吾屋戸之草佐倍思浦乾
ワカセコニワガコヒヲレハワガヤトノクサヘヲオモヒウラガレニケリ 是より下ノ橘本我立マテ皆卅本ニヨセタリ

来
アサヂハラヲノニ(我野ト定テ心ニカケ思フヲイフ)レメコラソトゴトヲイカナリトイヒテキミヲバマタム

朝茅原小野印空事何在云公待
ミチノベノクサフカユリノヽチニテフイモカミコトヲアレハシラメヤ

路邊草深百合之後云妹命我知
ミチトアヒマニシルクサノヒトミナニシリヌワガコタヤモヒ

潮莫延子菅不竊隠公戀乍有不勝鴨
シホアヒチヤマヒコロノイヅミナル相木郡スケヲナミニイモカコヒヲレハオキツシラナミ

山代泉小菅凡浪妹心吾不念
ヤマシロニフカクワガコヒヤマス

山葛昔白露重浦經心深吾戀不止
ミナトアヒテ(付字ヨリ併ハフコ)(菅ノヤウニノビズ)ニ及ハン妻ノミコヒツヽアリガテヌカモ

(秋野ト定テ心ニカケ思フヲイフ)
(命トカタミカメケレハ後ニトゾトモハカリカタヒトヽ)
(ウラヘハ顕ハ物思ヒナンミ人ノ心ヲ尽セルヲ)

見渡三室山石穂菅惻隠吾片念爲
ミモロノヤマノイハコスケ(根ノナキ物)シノビツヽアヒマニシルヲ

一云三諸山之石小菅
(我ヲヨメリ(ヨセクハトウヒトアフレトヨム))

菅根惻隠君結爲我紐緒解人不有
スカノネノシノヒニキミガムスヒテシワカヒモノヲトクヒトアラメヤ

山菅亂戀耳令爲乍不相妹鴨年經矣
ヤマスケノミタレコヒノミセサセツヽアハヌイモカモトシハヘニツヽ

我屋戸繞子太草雖生戀忘草見未生
ワカヤトノキニシケル(下ニ田中ニテ誤)ソヨエラレシワスレクサミレトオヒヌ

打田稗數多雖有擇爲我夜一人宿
ウツタニモヒエハカスアマタアリトイヘドエラレシワカヨヒトリヌル

秋稻下世八朝柏又ヤ川辺ノ(一云善田ラム)
(然ハ是モアサカレト下可読知名乃一結ヒモアヒミシヲ)
弾圓一ム(泥和朝柏ノ落ミヌル)又ヌルヤ川トモ云有年未考拾芥)
抄宮城郡(漆室ノ是ナトヲヌルヤトヨミテ紙屋川ノ様ニ川テモ有ヤニヒヨル出テヌルヤ川辺ノヲヽメミ袖フヨカフル欤初瀬
オモテニク袖ノミヌレニノ朝柏又ルヤ川ヘ歩ノメミニス白春哥合家隆ヾ

人不顔面公無勝
キミニヤサラニ(ナヰカホニ)神
(人ヘ)

我背兒爾吾戀居者吾屋戸之草佐倍思浦乾
ワカセコニワガコヒヲレハワガヤトノクササヘオモヒウラブカレ

朝茅原小野印空事何在云公待
アサチハラヲノニシルクサフカユリノ〇ノチニテフイモカミコトヲワレハシラメヤ

路邊草深百合之後云妹命我知
ミチノベノクサフカユリノチニテフイモカミコトヲワレハシラメヤ

潮莫延子菅不竊隱公戀作有勝鴨
シホアチニロイヅミラスケヲナミニイモカコヒヽロヒワオモハスヤ

山代泉小菅凡浪妹心吾不念
ヤマシロノイヅミノスケヲオホナミニイモカコヽロヲワオモハナクニ

山葛苔白露重浦經心深吾戀不止
ヤマクズノシタヘノツユノシケケレハウラブレコヽロフカクワガコヒヤマス

潮莫延子菅不竊隱公戀作有勝鴨
シホアチニロイヅミラスケヲナミニイモカコヒヽロヲワオモハスヤ

山代泉小菅凡浪妹心吾不念
ヤマシロノイヅミノスケヲオホナミニイモカコヽロヲワオモハナクニ

山葛苔白露重浦經心深吾戀不止
ヤマクズノシタヘノツユノシケケレハウラブレコヽロフカクワガコヒヤマス

見渡三室山石穗菅惻隱吾片念爲
ミワタセヤマムロノヤマノイハホスケコヽロイタクモワガカタオモヒスル

一云三諸山之石小菅
ミモロノヤマノイハコスケ

菅根惻隱君結爲我紐緒解人不有
スカノネノネモコロミヲムスヒテワレワカヒモノヲトクヒトアラメヤ

山菅亂戀耳令爲乍不相妹鴨年經乍
ヤマスケノミダレコヒノミセサセツヽアハヌイモカモトシハヘニツヽ

我屋戸燒子太草雖生戀忘草見未生
ワカヤトノヤケノフトクサミレトモコヒワスレクサミレトモタネヒス

打田稗數多雖有擇爲我夜一人宿
ウツタニモヒエハカスアマタアリトイヘドエラレテワレハヨヒトリヌル

足引名負山菅押伏公結不相有哉
アシヒキノナニオフヤマスケヲオシフセテキミニムスハアハスアラメヤ

秋柏潤和川邊細竹目人不顯面公無勝
アキカヘノウルヤカハヘノシノメニヒトモアハヌカホキミニマケナリ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

核葛後相夢耳受日度年經乍

路邉壹師花灼然人皆知我戀孃

或本歌云灼然人知爾家里繼而之念者

大野跡状不知印結有不得吾眷

水底生玉藻打靡心依戀此日

敷栲之衣手離而玉藻成靡可宿濫和乎待難

爾

君不來者形見為等我二人植松木君乎待出

年

袖振可見限吾雖有其松枝隱在

珍海濱邉小松根深吾戀度人子姤

或本歌云血沼之海之塩干能小松根母己

呂爾戀屋度人兒故爾

平山子松末有廉叙波我思妹不相止者

橘本我立下枝取成哉君問子等

五味子ノ後ニ心遣
三之云壹師ハ愛盆子ノ
指忘一　允

サヨカツラノチモアハムトコメニノミウケヒノワタリニハヘニツヽ

桜葛後相夢耳受日度年經乍
ミチノヘノイチシノハナノイチジロクヒトミナシリヌワカコヒツヽハ

路邊壹師花灼然人皆知我戀孋
イチシロクヒトシリニケリツキテ

或本歌云灼然人知爾家里繼而之念者
オホノラノアトカタシラスシメコヒテアリトモヒメヤワカヘリミムトテモカナラマシキヲ

大野跡非不知印結有不得吾眷
ミナソコニキルタマモノウチナヒキコヽロノヨセテコフルカヒノコロハ

水底生玉藻打靡心依戀比日
シキタヘノコロモテカレテタヽモ

敷栲之衣手離而玉藻成靡可宿濫和乎待難
ナヒキヌラムワヲマチガテニ

爾
キミコスバカタミニセムトクサフタリ

君不來者形見爲等我二人植松木君乎待出

牟
ム
牟

ソテフルヲミルヘキカキリウレハアレトソノマツカエニカクレタリケリ

袖振可見限吾雖有其松枝隱在
チヌノウミノハヘヘノコマツ子フカメテワガコヒワタルヒトノコユヱニ

珍海濱邊小松根深吾戀度人子始故乎
（和衆古事紀摂津ニモ有）

或本歌云血沼之海之若小松根母已
チヌノウラムヒトノコユヱニ

呂爾戀屋度人兒故爾
ナラヤマノコマツカエアレコソイマカキモフイモニアハス

平山子松未有廉紋波我思妹不相止者
イソノウヘニタチテフタキノコロイタクチニハオモフカメ

議上泣回香瀧心哀何深日念始
タチハナノモトニワレタチマツエトリナリヌヤキミニトヒコヘ

橘本我立下枝取成哉君問子等
カタチハ
（実ハ下ノ我ノ心ノ成ト）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

雲爾翼打附而飛鶴乃多頭多頭思鴨君不
子バ
座者
イモコフトイ子ヌ アサゲニヲシレトリノ白コソユシロタル倘モガツカヒカ
妹戀不寐朝明男為鳥從是此度妹使
助
キミフニシアマリニシカハニホドリアーシヌレクルヲヒトミケムカモ
念餘者毋穗鳥足沾來人見鴨 西ニ行悪
タカヤマノニ子ユクシヘノトモキホミノ能ツカリアナユミユヒヲ
高山岑行宛友衆袖不振來忘念勿
キホフヨニマ カヂレ呉仲ヌキコグホトヲイタクサコヒソトシニアノイカニ
大船真楫繁拔擢間極太戀年在如何
タラチヲノハハノカフコノヽユゴモリコモヒル イモヲミルヨシモカモ
足常母養子眉隱隱在妹見依鴨
コウヽヒトノヒタヒカニユヘル ソメユフノソメヒヽロシクヒス妬ヤ
肥人額髮結在深木綿染心我忘哉

一云所忘目八方
ワスラレメヤモ
早人名負夜音灼然吾名謂嫉恠
ハヤヒトノナニキフヨ ゴユイチシルクワカナノ(ハン)ヒトメツヽムキヅカシ
劔刀諸刃利足蹈死公依
ツルキタチモロハノトキニアヘテフミシニモシナムキミニヨリテハ 凡体
我妹戀度劔刀名惜念不得
ワキモコニコヒレワタレハツルキタチナノヲシケクモオモホエヌカモ
朝月日向黃楊櫛雖舊何然公見不飽
アサツクヒ(旭同)ムカフツケクシフリヌレトナニレカキミカミレトアカレヌ
里遠卷浦經眞鏡床重不去夢所見與
サトトホミ ウラフレニケリミカクミ(堪)ノヘサラスユメニノミエム(加)
眞鏡手取以朝朝雖見君飽事無
マソカヽミテニトリモチテアサナサナミレトモキミヲアクコトモナシ
玉桙道行人毛我如妹目見者苦寸戀許増
タマホコノミチユクヒトモワレノコトイモカメミレハクルシクコヒコソマサレ
夕去床重不去黃楊枕射然汝主待固
ユフサレハユカノヘサラヌツケクラノマクライナニ(何)シカソヌレテカタシキ(困)

引ユルサスハ
恋ラセムトハジメ
カタノ思ヒシ

拾恋三ノ九
ウラマサレテノ
言霊 書五

解衣戀亂乍浮沙生吾戀度鴨
アソサコ ニ ニキテユルサズアラ ニセ ハカ ヘル コ
梓弓引不許有者此有戀不相
コト (義依) 神霊ノ物ニアラ ニ ソノチ ヘタニ ユラケ トフウラ ニセ
事靈八十衢夕占問古正謂妹相依
タ ヘボコノ ミチユキウラニ ヨラ村ヘバイモニアハムトソレニイヒシル
玉桙路往占々相妹逢我謂
問答 九首
スメロギノ カミノミ カトヲ カレコミ トサクラフトキニ アヘル キミカモ
皇祖乃神御門乎懽見等侍從時爾相流公鴨
ソ カミニミルトモ イハメヤ タヽキホルイハカキフチノ カクレ タルソヽ
眞祖鏡雖見言哉玉限石垣淵乃隱而在嬬
カヾロ 長流ノ 三之云秘ム石垣ニ水メ孔河
六帖ニ此考フニ処ニ出タリイフレモ未ダ心ト点セリ
右二首

女ノ寄ヘシ
小ニ元烏井本或作少

アカゴマノ アガ掻キ ハヤクバ クモ井ニ モ カクレユカハヅソテニチワギモ
赤駒之足我枳速者雲居爾毛隱往序袖巻吾妹
才二吉駒ノアカキヲハヤミ雲居ニソ妹カアメヲラ思テヨコテリ
コモリクノ トヨハツ セ チハ (才一才九十メ古九河中名)
隱口乃豊泊瀬道者常濟 (濟サ) 乃恐道曽戀由眼
今モ豊山 トコナメノ カレコキミチゾ
ウニサカノ ミモロノヤニ タツ (立) ヒカルナ
味酒之三毛侶乃山爾立月之見我欲君我馬
ミワノキノ スル ミガホシキミガウマ
旋ル哥ニ似タト不可用
之咫音曽爲
右三首
入才七
雷神小動刺雲雨零耶君將留
ナルカミノ ヘバヘトヨミテサレクモリアメノフラバヤキミガトヾラム
ナルカミノヘハヘトヨミテフラズトモ ワレハトマラム イモトヾメハ
雷神小動雖不零吾將留妹留者
ナルカミノ コヨロキテヲ

右二首

レキタヘノ　ミクラタゴキテヨルモ子　ズ　キモフヒ上ニハノチモアハムモ
布細布枕動夜不寐思人後相物
レキタヘノ　ミクラニハコトムレニ　タリ　オモヒアヘリ　疑ノ誤　カモ

敷細布枕人事問哉其枕苔生負為
ノニアラニハコトヘヤ　ソノ一ニアラセレヒトコトヘヤ　オセテアヒセリ　同

右二首

人集ノ毒ヲモコニ出セハ貴テ〳〵并後此心ニ非ヤ十七ニモ山柿凡トイヘリ衆持ノ時代ヨリハヤ妻ニケルニヤ

以前一百四十九首柿本朝臣人麿之歌集出

正二述心緒一　百二首

タラチ子ノハヽニ　サハラバ　イタヅラニイ女ニレモワレモコトヤ
足千根乃母爾障良婆無用伊麻思毛吾毛事
アケヌナク　ナルベキ

應成

四所念

キクヤニノ　ヤ　イタドヲ　ソオシヒラキレ　ヤ　イテコチ　ノチ
奥山之真木乃板戸乎押開思恵也出来根後
ハヤ　セム　ナゲク辞　助字　カ出来ニ

者何将為

カリコモノ　ヒトヘ　ヲ　レキテ　サヌレドモキミトレヌレバ　助字　ヤクモナシ
刈薦能一重叫敷而紗眠友君共宿者冷雲梨
カキツバタニ　ホトヘハ俗説フルトヨムハ古説ニ　イササメニ　タノメテニ　ツフ

垣幡丹頬經君叫率爾思出乍嘆鶴鴨
ウフニムト　キモアカセナ　ヒテ　ハ　アリレカハ　ヨソニノミミレ　ユヽロハ　モヘド
カリコモノ　延ノ

恨登思狭名盤在之。者外耳見之心者雖念
サニヅラフ　イロニハ　イテス　スクナクモ　眤字カ　コヽロノウチニワガモハナ　クニ

散頬相色者不出小文心中吾念名君

カキツバタノ枕詞ニツヅク
ウフニシト思ヒテセナヲヨソニミレハ

女ニ似合ル考ヘ

ワガセコニアハバコメナ　タニアハバコエヘ名立マシキ
吾背子爾直相者社名者立米事之通爾何其
故

子ゆゑコロニカタモヒスルカ　コノゴロノ　ワカコヽロトゾ三同
勲片念爲歟比者之吾情利乃生戸裳名寸
ニツラムニ　イタラバイモガ　ウレシミト　ユヒテ　ハヤ　ミム
將待爾到者妹之懽跡咲儀乎徃而早見
タレソコノ　ワカヤドヲキ　ヨブタラチ　子ノハヽニ　イハレモノ　コロバレ
誰此乃吾屋戸來喚足千根母爾所嘖物思吾
乎

モロモロ子ヌヨハチヨモ　アリトモ　ワガセコガ　ユキモクユベキ
左不宿夜者千夜毛有十方我背子之思可悔
コヽロハモタジ
心者不持

萬葉集卷十一　十六

イヘビトハ　ミチモ　レ　ミ　ニ　ケム
家人者路毛繁美三荷雖來吾待妹之使不來
カモ
鴨

アタヽノ　キベ　ガ　タケガキアミメ　ヤモ
璞之村戸我竹垣編目從毛妹志所見者吾戀
メ　ヤモ
目八方

ワカセ　コカ　ソノナ　イハジト　タニキハルノチハ　ステツワスレタマフナ
吾背子我其名不謂跡玉切命者棄忘賜名
キホヨソハ　タレ　ミムト　カモヌバタマノ　ワガクロカミヲ　ナビキテ　ヲラム
凡者誰將見鴨黒玉乃我玄髪乎靡而將居
オモワスレイカナルヒトノ　スルモノゾ　ワレハ　レ　カヲヌツ　ツギテ　レ
面忘何有人之爲物鳥言者爲金津繼手志念
ハ
者

今モ兼玉郡ニ貴平村トイフアリ

考丸君ナルハ名ノ身カラニクケナルワケノ小椋モトヨリニトモハス

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

不相思人之故可璞之年緒長言憩將居
凡乃行者不念言故人爾事痛所云物乎
氣緒爾妹乎思念者年月之徃覽別毛不所念
鬼
足千根乃母爾不所知吾持留心者吉恵君之
隨意
獨寢等焚朽目八方。綾席緒爾成及君乎之將
待

相見者千歳八去流否乎鴨我哉然念待公難
爾
振別之髮乎短彌青草髮爾多久盤妹乎師曽
於母布
徊徘徃糞之里爾妹乎置而心空在玉者鵜鶘
名草乃新手枕乎巻始而夜哉將間二八十一
吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

六

寐者相縁毛無夢谷間無見君戀爾可死

誰彼登問者將答爲便乎無君之使乎還鶴鴨

不念卅到者妹之歡三跡咲牟眉曵所思鴨

如是許將戀物衣常不念者妹之手本乎不纏夜裳有寸

如是谷裳吾者戀南玉梓之君之使乎待也金手武

妹戀吾哭涕敷妙木枕通而袖副所沾

或本歌云枕通而巻者寒母

立念居毛曾念紅之赤裳下引去之儀乎

念之餘者爲便無三出曾行之其門乎見爾

情者千遍敷及雖念使乎將遣爲便之不知久

夢耳見尚幾許戀吾者寤見者益而如何有

對面者面隱流物柄爾繼而見巻能欲公毳

且戸遣乎速莫開味澤相目之乏流君今夜來

（第ヘン音ニ當テ下ノ類也）

（サヰタヨリ出テユキガテ　音ヲ通用）

（君カトソラ賴ミテ　俗ニ云カ如シ）

（君カ心後フニ見ムカリテモノスソルト　ヤヤキヤヴ、モノスソヌレヌ）

（君カ心後フニ見ムカリテモノスソルト　ヤヤキヤヴ、モノスソヌレヌ）

（拾遺ニヨミ人知ラヌ古キ心寄）

（下ニ人目守ト忘）

人ケナキ古里ニ捨オカレタル妹ガヨメルン

一ニセル　座有　タマダレノ　玉簾之　小簀之　垂簾乎　往褐寐者　不眠友君者　通速　爲　受　タラチネ　子ノ　ハニマタサハキニモ　アレモ　垂乳根乃　母白者　公毛　余毛相鳥羽梨丹年可　經　（並ナトノ文ニナヅムベカラズ　万葉上巻ニ出ル則ち奏決之大倫正對文毋是以下皆トヲマトハコトナリト）　愛等　思篇　来師　莫忘　登　結之紐乃　解樂念者　欲毛　（カモナル意也）　昨日見而　今日社間　吾妹兒之　幾許　繼手見卷

（ユキカテニイヲハヨ　モテカツケ）　（持掲）　（子ヲ思フトナラハ通ヒヨトヨメル）

故ナラン

人毛　無古郷爾　有人乎　悠久　也君之　戀爾令死　人事之　繁間守而　相十方八　反吾上爾　事之　大事　將

（ヒトモ　ナクフルサトニ　アルヒトヲ　メグ、ヤキミガ　コヒニシナセム　ヒトコトノ　シケキニ句モリテ　アリトモ　ケム　繁）

（サトヒトノ多人ナル意）

王人之　言緣妻乎　荒垣之　外也吾將見　惡有名　國

（ヒトコトヨセツ、ヤヲ　アラガキノ　ヨソニヤワガミム　ニクカラナ　リニ　國ニカク逢フ女ナシ）

（カク心ヲカケテ）

他眼守君之　隨爾余共爾　夙興夜寐　裳裾所沾　夜干玉之　妹之黒髮　今夜毛加　吾無床爾　靡而　宿良武

（ヒトメモルキミガ　ニシクワレトモニ　イモカクロカミニコヨヒモカ　ワレナキトコニ　ナビキテ　ヌラム）

ハナグハレアレガキゴレニ　クベヒトメ　アヒミ　コ　ユヱナ　社上ナゲキツ
花細葦垣越爾直一目相視之兒故千遍嘆津
イロニイデテ　コヒバ　ヒトミ　テレリヌベミ　コ、ロノウチノ　コモリツヽ　ハイヒモトケ
色出而戀者人見而應知情中之隱妻波母
アヒミ　テ　ハ　コヒナ　グサム　トヒトハ　イヘド　ミテノチニ　ゾ　モ助
相見而者戀名草六跡人者雖云見後爾曾毛
コヒ　ニサリケル
戀益家類
キホヨソニワレレ　キモハバ　カク　バカリカタキミ　延喜式十六禁ハ仍サト出ヤラメコライセタリ
凡吾之念者如是許難御門乎退出米也母
キモセヤム　ソノヒトナレヤ　ヌバタマノ　ヨゴトニキミガ　仁メニ助ミユル
將念其人有哉烏玉之每夜君之夢西所見
フラ
（コナタヨリモヌナメタヨリモ一トモヨルヒルイハスワカコヒワタル）
或本歌云夜晝不云吾戀渡
カクレ助ノミコヒバ　レヌベシタラチノ　ハ、ニモツゲツ　ヤマズ　カヨハ
如是耳戀者可死足乳根之母毛告都不止通

セ
爲
テスラヲハ　トモノ　ヲノキミニ　ナグサモ　此副未考
大夫波友之驂爾名草溢心毛將有我衣苦寸
イツハリモ　ニ　ツキテゾ　スルイツク　ニ　カ　ツケ三歌
僞毛似付曾爲何時從鹿不見人戀爾人之死
スル
爲
メツヽルル私
コヽロサヘ　テタセルキミニ　ナニヨ　カモイハズ　イヒレト　ワガスヲ
情左倍奉有君爾何物乎鴨不云言此跡吾將
ニハム　（イハヌコフイヒタリト）
竊食
オモワスレダノ十ニ　モエヤ　トタ　ニギリテ　ウテドモコリズ　コヒノ
面忘太爾毛得爲也登手握而雖打不寒戀之
ヤツコハ
奴
（恋ヲノリテモ　本ニツヅケ心ニテ又恋ハクニテトモヨミテヲリク物ナド恋ラレ一ナリ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

神功皇后紀云
時皇后曰希則
物也希見此云
梅豆羅志

拾遺四
サラキ手手 人丸

希將見君乎見常衣左手之執乃方之眉根掻
（メヅラシキ戀夏 ル トイヒテ ヤトムル ハテニハタガハヤウナド ル ル 曲ト通ス）
禮 （私 レ）
ヒトマ モルアレガキゴレニ ワキモコヨアヒミレカラニコトゾ
人間守蘆垣越爾吾妹子乎相見之柄二事曾
（評 レ）
サダ オホキ
左太多寸
（サヘ比ノ業報記私 原氏三サダ過ル
三ヲ曰ハヒセ）
イマダニモ メナトモレメソアヒミズテコヒムトレツキヒサレケナ
今令谷毛目莫令乏不相見而將戀年月久家莫
（ベーうしにし）
（三コヌノチカラヘメリ）
クニ
國
アサヂ ガミワレハ ケヅラレウクレキミガタ マクラフレチレ モノヲ
朝宿髮吾者不梳愛君之手枕觸義之鬼尾
ハヤユキテ イツレカキミヲアヒミムトキモヒシコロイマゾ ナギヌ
早去而何時君乎相見等念之情令曾水葱少
妹ル

拾遺二 人丸
イクヒサシミモ
オモホユルカナ

アキシ 無厉 文选 古詩

ル

默
（男夫ガ名又ヲシ ヌルム）
オモカタメノ
面形之忘戸在者小豆鳴
（忘ル物ニテアハ ヲヌルト ナラハ）
（知名正借字）
（アヂキ 无端 先狀）
言云者三三二田輙八酢四小九毛心中二我念
コトニイヘバ ミ耳 ニ タヤス ク
ハナクニ 恋トモイハ心タニナリヌヘシナキテ人ニミスヘカリケル 和衣部歩
羽奈九二
アヂキナク
（ワガ人ニヒキ由ヲノ自ヲ馬飼 ナニノマガコトゾイマサラニワラハ ゴトスル ヲヒバトニレ
小豆奈九何枉言今更小童言爲流老人二四
（原氏情ケ内言ナトニカ 事ル）
テ
手
（字ナシ落字ヒトニ字脫歩
アヒミテハ イクヒサレサモアラナクニ トレツキノゴトオモホユルカ モ
相見而幾久毛不有爾如年月所思可聞
（不 ズ ノ）
（バカリコヒセムルハ ウ 諸 奇 志 ニ 發 サリケル）
大夫登念有吾乎如是許令戀波小可者在來
（アヘテシカリケリ 別野）

カクシツ、ワカマツルレアムカモヨノヒトコトナノソ子ナラナクニ
ヒトコトヲオホキミニタマツサノ ソカヒモヤラズ ワスルト為モフナ
人事茂君玉梓之使不遣忘跡思名
キホハラノフリニレサトニイモヲキキテワレイチカチツ
大原古郷妹置吾稲金津夢所見乞
ユフサレハ キミキ マスノトマチレヨ ノ
夕去者公来座跡待夜之名凝衣令宿不勝為
アヒオモハヌキミハ アルラレ ヌハタマノユメニモミエス ウケヒテヌレド
不相思公者在良思黒玉夢不見受旱宿跡
イハ子 フミヨ ミチユカビトヤモヘレ
石根蹈夜道不行念跡妹依者忍金津毛
ヒトコトノミデキマモルト アハガタレバ ツサニ コラガヲモワスレトム
人事茂間守跡不相在終八子等面忘南
コヒレナムノチハナニセムワガイノチイケルヒニコソミマクホリスレ
戀死後何為吾命生日社見幕欲為禮

レキタヘノマクラウコキテ イチラ エロ スモ
敷細枕動而宿不所寝物念此夕急明鴨
コカヌ ワガクルト カ ヨルモカトヲサヽズ
不往吾来跡可夜門不閉恠怜吾妹子待筒在
ヤメニタニナニカモミ エ ヨモ カドサシテモ ワレ カモマトフコヒノレケキニ
夢谷何鴨不所見雖所見吾鴨迷戀茂爾
ナ グサムルコトロハナレニ カクシ ノミコ ワタラムツキニヒニケ古説
名草漏心莫二如是耳戀也度月日殊
キキツ ナニレキテ ノニヤ モ コヒワタリナム
或本歌云奥津浪敷而耳八方戀度奈牟
イカニシ テ ワスレハ梅ノゾワキモ コ
何為而忘物吾妹子丹寄乃里人皆爾吾戀八方
トホクアレト キニヨソ コフル タニホコノ
遠有跡公衣戀流玉梓乃(里ミナヒトニサステ置)里人皆爾吾戀八方
レルニ ナキコヒヲモ スルカ ユフサレバ ヒトノテマキテ子ナム コユニ
驗無戀毛為鹿暮去者人之手枕而将寐兒故
カヒナキ (兒ガラニ)

百世下千代下生有目八方吾念妹乎置嘆
現毛夢毛吾者不思寸根有公爾此間將會十
羽
有
念出而哭者雖泣灼然人之可知嘆爲勿謹
玉桙之道去夫利爾不思妹乎相見而戀比鴨

人目多常如是耳志倭者何時吾不戀將有
敷細之衣手可禮天吾乎待登在鑑子等者面
影爾見
妹之袖別之日從白細乃衣片敷戀管曽寐寐
白細之袖者間結奴我妹子我家當乎不止振
四二
夜干玉之吾黒髪乎引奴良思亂而反戀度鴨
今更君之手枕巻宿米也吾紐緒乃解都追本

上句ハ乱レ一序ニ其後朝のサマモテユトヒ

拾恋三　人丸

カクトタメコヤハジキノフキ此言借ヲテ心得合スベシ

十

名
レロタ　ヘノ之良　ソデヲフレテ　ヤヨ　ワカ世コ　ニ　ワカコフラクハ　ヤムトキ
白細布乃袖觸而夜吾背子爾吾戀落波止時
モナキレ
裳無

神ヲメミフレタルカ神タニアルニトイハニカ如シ

ユフゲニモ　タラニモ　ソレアルコヨヒダニキマヌキミヲイツトカ待ム
夕卜爾毛占爾毛告有令夜谷不來君乎何時
將待

拾恋恋三日ニモヨリアリトヨメリ然レハ古本告ノ字ヲ告ニ作レル乎吉相

マユコ　カキレタイブカレニ　キモヘル　ニ　イニシヘヒトヲ　アヒミツルカモ
眉根掻下言借見思有爾去家人乎相見鶴鴨
オボツカナキ

或本歌曰　眉根掻誰乎香將見跡思乍氣長
ヒト又アハルカモ　コヒレ　イモ　ニ
戀之妹爾相鴨

新千恋三　人丸
催馬禾ニヌキリキレヤ谷田ヤハラミヌルヨハナクテ親サヘル妻

續後拾恋三　人丸

一書歌曰眉根掻下伊布可之美念有之妹
マユコ　カキレタイブカレニ　キモヘリレ　イモ
ガスガタヲケフニツルカモ
之容儀乎今日見都流香裳

敷栲乃枕卷而妹與吾寐夜者無而年曾經來
レキタヘノマクラヲマキテ　イモト　ワレヌルヨ　ハ　ナクテトレツヘニケル
オクヤマノキノイタトヲ　キトハヤニ　イモカ　アタリノ　レモノウヘニ
奥山之真木之板戸乎音速見妹之當乃霜上
子ヌ
爾宿奴

〈ムレトモ音セヌヲ忍ノセムテハ妹カアタリノ霜上ニ三之云アラアケサハ無是非体〉

アシヒキ　ノヤマツサキ　ヲアケオキテ　ワガマツキミヲ　タレカトヾムル
足日木能山櫻戸乎開置而吾待君乎誰留流
ツキヨヨミ　イモニ　アハムト　タバチ　カラワレハ　クレトモヨゾ　フケニケル
月夜好三妹二相跡直道柄吾者雖來夜其深
去來

〈俗ニカミニナト云〉

寄物陳思 百八十九首

朝影爾吾身者成辛衣襴之不相而久成者

アサカゲニ ワカミハ ナリヌカラコロモ スソノ アハズテ ヒサシクナレハ

解衣之思乱雖恋何如汝之故跡問人毛無

トキヌノ オモヒミダレテ コフレドモ ナゾ ナガユヱト トフヒトモナキ

[illegible]者孰人之言可將繁

志賀乃白水郎之塩焼衣雖穢恋云物者忘金津毛

呉藍之八塩乃衣朝且穢者雖為益希將見裳

クレナヰノ ヤシホノ コロモ アサナサナ ナレハ スレドモ イヤメヅラシモ

紅之深染衣色深染西鹿歯蚊遺不得鶴

クレナヰノ コゾメノ コロモイロ フカク ソミニシカバカ ワスレカネツル

不相爾夕卜乎問常幣爾置爾吾衣手者又曽可續

アハナクニ ユフゲヲ トフト ヌサニ オクニ ワカコロモデハ マタゾ ツグベキ

古衣打棄人者秋風之立來時爾物念物其

フルゴロモ ウチステヒトハ アキカゼノ タチクルトキニ モノオモフモノゾ

波禰蘰令為妹之浦若見咲見慍見著四紐解

ハネカヅラ イマスル イモヲ ウラワカミ ヱミミ イカリミ ツケシ ヒモトク

去家之倭文旗帯乎結垂孰云人毛君者不益

イニシヘノ シヅハタオビヲ ムスビタレ タレトフヒトモ キミニハ マサジ

一書歌古之狭織之帯乎結垂誰之能人毛君爾波不益

イニシヘノ サヲリノ オビヲ ムスビタレ タレシノ ヒトモ キミニハ マサジ

不相友吾波不怨此枕吾等念而枕手左宿座

アハズトモ ワレハ ウラミジ コノマクラ ワレトオモヒテ マキテサネマセ

寄物陳思 百八十九首

朝影爾吾身者成辛衣襴之不相而久成者

解衣之思亂而雖戀何如汝之故跡問人毛無

摺衣著有跡夢見津寐者孰人之言可將繁

志賀乃白水郎之塩焼衣雖穢戀云物者忘金津毛

呉藍之八塩乃衣朝且穢者雖爲益希將見裳

紅之深染衣色深染西鹿齒蚊遺不得鶴

不相爾夕卜乎問常幣爾置爾吾衣手者又曽可續

古衣打棄人者秋風之立來時爾物念物其

波禰蘰今爲妹之浦若見咲見慍見著四紐解

去家之倭文旗帶乎結垂孰云人毛君者不益

一書歌古之狹織之帶乎結垂誰之能人毛君爾波不益

不相友吾波不怨此枕吾等念而枕手左宿座

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

長紐結紐天武紀又延喜式小忌所垂紐結紐

新拾戀四　マスカヽミ　人丸

ムスビヒモ　トカムヒ　トホミニシ　キタヘノワカコ　ユヒシ　トクヒヲ

吉紐解日遠敷細吾本枕蘰生來　ヌハ　タヽノ　クロカミニキテ　ナカキヨ　ヲ

夜干玉之黒髪色天長夜叫手枕之上爾妹待　ラムカ　(敷)　(丹床)

覽蚊　ヽノ　カゾミタヽニ　シ　イモヲ　アヒミズハ　ワカコヒヤマジ　トレハ

眞素鏡直二四妹乎不相見者我戀不止年者　ヘヌトモ　アヒミヌヨハ　ヤマス

雖經　ヽソ　カヽミテニトリモチテ　アサナサナ

眞十鏡手取持手朝旦(將宜)見人時禁屋戀之將繁　サトトホミコヒワビニケリヽソ　カヽミオモカケサラズ　仕メニ　ミエ

里遠戀和備爾家里眞十鏡面影不去夢所見　コソ

社

萬ヲコソコセトヨム證

新勅戀四

酒元所見云爲云不言也唯同兩字

右一首上見柿本朝臣人麿之歌集中(十三丁目裏遠ミウラフレニケリト云寄ソノ寄ニ與ク字ヲコソト可讀トヲハコヽミ社ト呑メルハ)也但以

句句相撰(ヲ)故載於茲(ニ)

劔刀身爾佩副流大夫也戀云物乎忍金手武　ツルキタチモロハノ　ウヘニ　ユキフレテ　キラレ　カモシナム　コヒツヽアラ

劔刀諸刃之於裔去觸而所殺鴨將死戀管不　ズハ

有者　(西イ)　ウチワラヒテ(マヨ)　ゾヒ　ツルツルキタチニソ

西鼻乎曾遠鶴劔刀身副妹之思來下　(分ナ)　アツサユミスヱノ　ハラヒユミ(腹)ニ　トカリスル　キミカユツルノ　タヱムト

梓弓末之腹野爾鷹田爲君之弓食之將絶跡　キモヘ　ヤ(未勘三之云參阿ノ名処ト腹野ヘル)　(鳥狩)　(日本紀ニ倭武天皇ノ御歌ニ弘都良ト呑メルハ)　(ツラ)　(弦)

念鬘(日本紀ニ忘ノ心ニテ此字ヲ用ユ)　タヱトカオモハス

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

新勅恋四 八九

拾雑賀 八九
ヒキミユルベミ コバ
コソナシゾヨソニコソミメ

結句ハ三四句ヲ打返シテ云ヘシ

カツラキノ ソツ ヒコマ ユミアラキ ニモ タノムヤ キミガ ワガ
葛木之其津彦真弓荒木爾毛憑也君之吾之

ナノリケム
名告兼

アヅサユミ ヒキミユルベミ コズハコズ コバソヲナゾ
梓弓引見絶見不來者不來者其其乎奈何

コズハコバソハ
不來者來者其乎

トキモリノ ウチナスツヅミ カゾフレバ トキニハナリヌ アハヌモアヤシ
時守之打鳴鼓數見者辰爾波成不相毛怪

トモシビノ カゲニカガヨフ ウツセミノ イモガエマヒシ オモカゲニ
燈之陰爾蚊蛾欲布虚蟬之妹蛾咲状思面影二

ミユ
爾所見

タマホコノ ミチユキツカレ イナムシロ シキテモキミヲ ミム
玉戈之道行疲伊奈武思侶敷而毛君乎將見

和名 西生郡津守

続後拾恋三 八九
コヒソワガセコ

横雲ハ布ヲハヘタルヤウナル八心ヲ得テ書リ

ヨシモガモ
因母鴨

新続古 田家見月 後鳥羽院
新古 順徳院

ヲハリタノ イタダノハシノ コボレナバ ケタヨリユカム ナコヒソワギ
小墾田之板田乃橋之壊者從桁將去莫戀吾

モ
妹

ミヤギヒク イヅミノソマニ タツタミノ ヤムトキモナク コヒワタル
宮材引泉之追馬喚犬二立民乃息時無戀渡

カモ
可聞

スミノエノ ツモリアビキノ ウケノヲノ ウカレカユカム コヒ
住吉乃津守網引之浮笑緒乃得干蚊將去戀

ツツアラズハ
管不有者

ヨコクモノ ソラユヒキコス トホミコソ メゴトカラメ タユトヘダツ
東細布從空延越遠見社目言疎良米絶跡間

萬葉集巻十一 二十九

国立国会図書館 タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

也 カニカクニモノハ キモハスヒ(ヘタ)ビトノ 云云物者不念斐太人乃打墨縄之直一道二 アシヒキノヤニタ モルゲガキクカ(ヒタ)ヒ(ヘ)ノ 足日木之山田守翁置蚊火之下粉枯耳余戀 ヨラク 居久 ソギ イタモテフケル イタ(ヒ)ノ アハ(ヤ)ズ ラハ イカニ セムトカ 寸板持蓋流板目乃不令相者如何爲跡可 ワカ子 ソメケム 吾宿始兼 ナニハ ビトアシビ タクヤノ 美波人葦火燎屋之酢四手雖有已妻許増常 メヅラシキ 目頬次吉 タレト、ヨミタル人雖然垂ト云ニ(心カハメツラカルトスルヲ略ス)テアヘバ、云ヲ略ス(タレトヨム)

(延喜式民部省 令義解云九斐飛国庸調倶免每里点丘十人 ヤ 斐太郡 キノ水戸)

(飛騨国ノ斐太郡ノ人ノ事ト云ヘリ)

(逢ヒテ後一心)

(新古今三人丸ノ哥トメトコガレツヽ ソガコテフハトナラシヌリ 出雲風土記大原郡日古先伝云昔或人此処山田畑而守之尓時一目鬼来而食使人之男)

(煤垂ル家モ已ニ家トイハ住ヨ妬ク称妻モ住フレシ哉中ニ尼アヌ スハメツラカルトヘテアヘバ云ヲ略ス(タレトヨム)ヘシ)

(雖波人ハ雖飛ニ住人ヲ云ヲオミニナハオトコ尼ヨメリニ御製之那拝波警苔須儒麦尼 部曜脊許辞尼豆跡曽能麦尼苔曜赤朴朋係刻尼苔孔カラバフルキ伺腰白スレ尼酢四手雖有トヨミタル尼テアヘバ云ヲ略ス(タレトヨム)ヘシ 万葉紀)

(延喜式大和高市郡軽ノ村坐神社 是マテニ首皆全写)

(堀河百首——昔ハアケ小サノトヨミケルニヤ歌家六帖合 結髪 李陵伝 堀初白鶴 俊頼 個引スル三津浪ヘニテハタヒテアケホサノニタツ帰ルナリ)

(コトニテキト出ル例オ一ニモアリ 拾遺 人丸 拾恋二人丸モテ)

妹之髪上小竹葉野之放駒蕩去家良思不合 イモカ ガミアゲ サヽバノ ハナレゴマアラ ラビニ アハヌ 思者 ウシノオトノ トドトモ スレハ ニツカケニ 音之跡将登毛爲者松陰乎(待ヨヘ) 香跡 キミコフトイ子 ヌ アサケニタガ(ヒ)ノレル ウツ 君戀寝不宿朝明誰乗流馬足音吾聞爲 クレナヰノ スソヒクミチヲ ナカニオキテ ワレヲ(ヒツヽ)ヤ 紅之襴引道乎中置而妾哉将通公哉将来座 カヨハムキミヤ キマサム 一云須蘇衝河乎又曰待香将待 アヘトブヤ カルノヤドノ イハヒツキイクヨ ニテアラム コヒヅヽゾ モ 天飛也軽乃社之斎槻幾世及将有隠嬬其毛 トブヤ カルノヤシロノ イハヒツキ(イハヒ木ノ名ヨシ) イクヨ ヒサシク

(堀河百首——昔ハアケ小サノトヨミケルニヤ歌家六帖合)

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

神十五山ニ社ヲ立テイハフトイヘド定メキ人心ヲ守リテ約ツタハスト常ナラレメヨフトハアメハヌミヤト

カミノ ヒモロギ タテ イハフトイヘド 人心者間守不敢
神籬 神代紀下 日本紀私記曰神籬俗云比保路岐

物

アマクモノ ヤヘグモガクルカミノ 天雲之八重雲隱鳴神之
アラバヘバ カミモ ニクミス ヨコヤコ ヤ 音爾耳八方闇渡南
爭者 神毛惡爲縱 咲八師 世間 副流君之惡有莫
クニ

君爾

ヨナヌテ キミヲ キ ニセト チ ハヤフル 夜並而君乎来座跡千石破
夜 ナヌ

神社乎不祈日者

靈治波布神 靈衆抄云アラミ靈ノアラハテ荒ヲ云神中物メマレイヘ其神ニモチステ、余オシカラストヘチトタト立音過目安ニハモミス私ノ式ヘ師云メハレキヘハヤアルヒ汪ト可見合又云イハフヘ以和ハ同前遠ス神九ミ説ナハ王ニテトアラ雷威タマヘチ マレマス神ナレハイハヒテアラム故ニ王チハフトニ

無

ナシ

カミノ ワレハ ウチステテキ 靈治波布神毛吾者打棄乞
カミモ ワレバ コシ

四惠也壽之悕無

ワギモ ニニヘタモ アハムト チ ハヤフル 吾妹兒又毛相等千羽八振
上ノ夜並而ニ似メル寄ヘ

神社乎不禱日者

無

チ ハヤブルカミノ イガキモ 千葉破神之伊垣毛可越今者吾名之惜無
日本紀私記云瑞籬俗美豆加岐又云賀岐 コエヌベシイマハ ワカナ ノ ヲシケクモナシ
ユフツクヨ アカツキヤミノ アサカケニ ワカミ ハ ナリヌナロヲ 暮月夜暁闇夜乃朝影爾吾身者成奴汲乎念
カゲ新朝影ハイカヽ考ノ戸ヘ 痩ルノ前ニヘタリ上ニ出ヒ モオヒ

金舟

ツキヨミ アレハ アクラムワキモ ミラテワガコレヲ ヒトニ ケム 月之有者明覽別裳不知而寐吾來乎人見兼
カモ

鴨

イモカメノ ミ ニクホレケク ユフヤミノ コノハ ゴモレル ツキヲツガコト 妹目之見巻欲家口夕闇之木葉隱有月待如

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

真袖持床打拂君待跡居之間爾月傾
マソデモテトコウチハラヒキミマツトヲリシアヒダニツキカタブキヌ

二上爾隱經月之雖惜妹之田本乎加流類比來
フタカミニカクロフツキノヲシケレドイモガタモトヲカルルコノゴロ

吾背子之振放見乍將嘆清月夜爾雲莫田名引
ワガセコガフリサケミツツナゲクラムキヨキツクヨニクモナタナビキ

眞素鏡清月夜之湯徙去者念不止戀社益
マソカガミキヨキツクヨノユツロヘバオモヒハヤマズコヒコソマサレ

今夜之在開月夜在作文公乎置者待人無
コノヨヒノアリアケツクヨアリツツモキミヲオキテハマツヒトモナシ

此山之嶺爾近跡吾見鶴月之空有戀毛爲鴨
コノヤマノミネニチカシトワガミツルツキノソラナルコヒモスルカモ

烏玉乃夜渡月之湯移去者更哉妹爾吾戀將居
ヌバタマノヨワタルツキノユツリナバサラニヤイモニワガコヒヲラム

朽網山夕居雲薄往者余者將戀名公之目乎欲
クタミヤマユフヰルクモノウスラガバワレハコヒムナキミガメヲホリ

君之服三笠之山爾居雲乃立者繼流戀爲鴨
キミガキルミカサノヤマニヰルクモノタテバツガルルコヒモスルカモ

久堅之天飛雲爾在而然君相見落日莫死
ヒサカタノアマトブクモニアリテシカキミヲアヒミムオツルヒナシニ

佐保乃内從下風之吹禮波還者胡粉歎夜衣大寸
サホノウチユアラシノカゼノフケレバカヘサハシタケテナゲクヨゾオホキ

級子八師不吹風故玉連開而左宿之吾其悔
寸

窓超爾月臨照而足檜乃下風吹夜者公乎之
其念

河千鳥住澤上爾立霧之市白兼名相言始而
者

吾背子之使乎待跡笠毛不著出乍其見之雨
落久爾

辛衣君爾内著欲見戀其晩師之雨零日乎
彼方之赤土小屋爾霧零床共所沾於身副
我妹

笠無登人爾者言手兩手見留之君我容儀志
所念

妹門去過不勝都久方乃雨毛零奴可其乎因
將爲

夜占問吾袖爾置白露乎於公令視跡取者消

管

擽麻乃莩原之下草露有者令明而射去母者
雖知
待不得而内者不入。白細布之吾袖爾露者置
奴鞆
朝露之消安吾身雖老又若反君乎思將待
白細布乃吾袖爾露者置妹者不相猶預四手
云云物者不念朝露之吾身一者君之隨意

夕凝霜置來。朝戸出爾甚踐而人爾所知名
如是許戀乍不有者朝爾日爾妹之將履地爾
有申尾
足日木之山鳥尾乃一峯越一目見之兒爾應
戀鬼香
吾妹子爾相縁乎無駿河有不盡乃高嶺之焼
管香將有
荒熊之住云山之師齒迫山責而雖問汝名者

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

不告
イモガナモ ワカナモタノバ ヌレミヨソフジノ タカ子ノモエ
妹之名毛吾名毛立者惜社布仕能高嶺之燒
ツヽワタル
乍渡

或歌曰
キミガナモ ワカナモタノバ ヌレミヨソフジノ
君名毛妾名毛立者惜己曽不盡乃
タカ子ノモエツヽモ ヲノレオトヨムヘクヤコヽニ對ス
高山之燒乍毛居
ユキテミテ キテソヒトヒニモキアサカ
往而見而来戀敷朝香方山越置代宿不勝鴨
アスカヽハミツユキイカリイヤヒケニコヒノミシケシモ
飛鳥川水往増彌日異戀乃増者在勝申目
ニモカルキホドカハラノミコモリニコヒコヒヒコレイモカ
黒鳥川乃泉之水隠戀来之妹之紐解吾
アスカガハアスモワタラムイケバカ
明日香川明日文將渡石走遠心者不思鴨
アスカヽハミツユキイヤヒケニコヒノミシケシモ
飛鳥川水往増彌日異戀乃増者在勝申目
ニモカルキホドカハラノミコモリニコヒコヒヒコレイモカ
黒鳥川乃泉之水隠戀来之妹之紐解吾
アスカガハアスモワタラムイケバカ
明日香川明日文將渡石走遠心者不思鴨

安太人乃八名打度瀬速意者難念直不相鴨
カケロフノヒトハカキブチノコヌトモナガナヘドタヅニハヌカモ
玉蜻石垣淵之隱定伏以死汝名羽不謂

者
アレヒキノヤヽシタトヨミユクミツノ
惡氷木之山下動逝水之時友無雲戀度鴨
アハヌキミユヱイタヅラニコノカハノセニタヽモヌラムツ
愛八師不相君故徒爾此川瀬爾玉裳沾津
ハツセカハハヤミハヤセヲナルミトアケテアカズヤイモトトヒレ
泊瀬川速見早湍乎結上而不飽八妹登間師
キミハモ
公羽裳

不告
イモガナモ　ワカナモ　タノバヌヨミヨソフジノ　タカ子ノモエツヽワタレ
妹之名毛吾名毛立者惜社布仕能高嶺之燒
乍渡
本歌平　キミガナモ　ワカナモ　タノバヌヨミヨソフジノ
或歌曰君名毛妾名毛立者惜己曾不盡乃
タカ子ノモエツヽモ　オトヨムヘヤコソ
高山之燒乍毛居
ユキテミテ　キテソコヒヌキアサカ
往而見而来戀敷朝香方山越置代宿不勝鴨
（キテコヒシキ）　（補紀ヒ脱カ）　（深ミ海辺ヘバタヤマコエニ）
安太人乃八名打度瀬速者雖念直不相鴨
（作ラ）　（ウチワタセヨハヤミコヽロハオモヘドタヽニアハヌカモ）
カケロフノ
（ナカキ）
玉靖石垣淵之隱庭伏以死汝名羽不謂
（紀ノ歌ニ之）

（渡宜）

（挽表アスカ川アスタニトモ思フニモケフニマハ尚ノ恋ニキ）
（申ハ旅ニハニシトヨリ）
（拾恋一ヨミ人シラズ　特ソトモナク恋ワタル　カモ）
（上八葉右可考　同哥）

萬葉卷十一　二十五

アスカガハアスモワタラムイハバカ
明日香川明日文將渡石走遠心者不思鴨
（近キ）　（補紀ヒ脱カ）　（島市部）
アスカヽハミツユキニカリイヤヒケニコヒノミサレハアリガテヌカモ
飛鳥川水往増彌日異戀乎曾吾
ニモカルキホヒカヲ　ガハラノミコモリニコヒコレイモカ
（大野枕詞）
眞鷰刈大野川原之水隱戀来之妹之紐解吾
（忍ク心恋シ人ニ逢テアルコトヲメリ）　（カルテ）
者
アレヒキノヤヽシタトヨミユクミツノ
惡氷木之山下動逝水之時友無雲戀度鴨
（ヨルカギリ）　（ヤヽモヌラシツ）
アハヌキミユエイタヅラニコノカハノセニ
愛八師不相君故徒爾此川瀬爾玉裳沾津
（ナルニヨ）
ハツセカハハヤミハヤセヲムスビアケテアカズイモトトヒレ
泊湍川速見早湍乎結上而不飽八妹登間師
（妹ニカヌ此水ニアラヌカヤウレ）
キミハモ
公羽裳

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

アヲヤマノ　イハカキヌ（歌可考）　マノ　ミヨ
青山之石垣沼間乃水隠爾　戀哉度相縁乎無
シ　ナガドリ井　ナヤマトヨキ　ユクミツノ
四長鳥居名山響雨行水乃名耳所縁之内妻
ハ　モ　猿丸集ニ方鳥井山ユスリユク水ノナノミヤカニテコヒワメルカモ
波毋　文治六社百首照射トモシニモシカ鳥ヨヤマスヲカサノ山ラワケ及マス　俊成
ナノミシ　ヨセ　テ　コ
一云名耳之　所縁而　戀管哉將在
ワガコフラクハ　ミツノナラハシ　カラミ　コエテ　ユクヘク
有者之賀良三超而應逝
越門
小知
（十也起テコヽヲヘ三之二五ハ十七ハト）
ト　ヲ助キ　（十三九　同廿六二五ハ十三ハ）
（十五ハ十三ハ）

セ　ワガナ　（瀬音ノ水ノ）
須余名告奈　（古今集ニ皇城哥此哥ノ人アクルマニノ来ヌ王ヘトノ名取川イサトヨ又ヘヨウカ名モラスナ）
オクヤマノ　コノハ　ガクレテ　ユクミヅノ
奥山之木葉隠而行水乃
ウト　クハ　ナカハ　ヨド　ム　ミ　ナセ
音乎聞　従常不所忘
ナユメ
名湯目
アス　カハユクセ　ヲ　ハヤミ　ハヤキセニ
明日香河逝湍乎早見將速
ヒ　クラヒツ
日晩津
モノヽフノヤソ　ウヂガハノ　ハヤキセニタチ
物部乃八十氏川之急瀬立
メ　ル　ヌ　コヒモ　クレハスルカモ
不得戀毛吾爲鴨
タテテ　モ　キミハ　ワスレカテツモ
一云立而毛君者忘金津藻

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

アヲヤマノ イハカキヌ（昕考）マノ ミコヒヤ ワタラムアラコシ ナニ
青山之石垣沼間乃水隠爾戀哉度相縁乎無
シ ナガドリ井ナヤマトヨキ ユクミツノ ナキノミヨ セテシコモリツ
四長鳥居名山響雨行水乃名耳所縁之内妻
ハモ 猿丸集ニ方鳥井山ユスリユク水ノナニシカシテ又治六女社百首照射トモシモ方鳥ヨヤマスソカ井カムラワケ忍ラム 俊成 下三上開木下師説又彌尼脱手 ナノミヨセウ 元暦 六帖
波毋

ナノミシ ヨセテコヒツヽヤアラム
一云名耳之所縁而戀管哉將在

ワギモ コニワガコフラクハ ミヅナラハシレカラミコエテユクヘク
吾妹子吾戀樂者水有者之賀良三超而應逝
ゾ キモフ 越前
衣思

アヒキモハヌヒトヲ キモハク
或本歌句云相不思人乎念久

イヌカミノ トコノヤマナルイサヤカハイサヤト ヲ助キ 十也起テ五ケ三之 二五十七ハト 十三ノ九 同廿六
狗上之鳥籠山爾有不知也河不知二五寸許

セ ワガナ 紫女ナ（ノフスナ） 古今集ニ里減哥 此哥ノ人アクルヨノ朱女ニ玉ヘルト 名取川イカトヨム又ヘヨツカ名モシラスナ
須余名告奈

オクヤマノ コノハガクレテ ユクミヅノ ナセカハタユキテフ コトヲコソ
奥山之木葉隠而行水乃音聞從常不所忘

ウト、クハ ナカハ ヨモリ（ヨド）ニ、ゼ、ニ ナセ 津国嶋上郡瀬飛名井本 国史ニハ水生或ハ水成ト書
言急者中波余騰益水無河絶跡云事乎有超

ナユメ
名湯目

アスカカハユクセヲ ハヤミムトマツラムイモヲコノ
明日香河逝湍乎早見將速整待良武妹乎此

ヒ クラヒツ
日晩津

モノ、フノヤソウヂガハノ ハヤキセニタチアソヌ（エ カメキニ比ス エ カスル） コヒモワレハスルカモ
物部乃八十氏川之急瀬立不得戀毛吾為鴨

タテテモ キミハワスレカテツモ
一云立而毛君者忘金津藻

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

神名火打廻前乃石淵隠而耳八吾戀居
カミナビウチマハリノイハブチカクリテノミヤワカコヒヲラム

白髙山出来水石觸破衣念妹不相夕者
シラタカヤマニイデクルミツノイハニフレワレニゾキモイモニアハヌヨヒハ

朝東風爾井提越浪之世蝶似裳不相鬼故瀧毛響動二
アサコチニヰデコスナミノヨソメテウニモアハヌモノユヱタギトモタキニ

高山之石本瀧千遊水之音爾者不立戀而雖死
タカヤマノイハモトタギチユクミヅノトモニハタテジコヒテシヌトモ

隠沼乃下爾戀者飽不足人爾語都可忌物乎
コモリヌノシタニコフレバアキタラズヒトニカタリツグベキモノヲ

水鳥乃鴨之住池之下潤無欝悒君令日見鶴
ミヅトリノカモノスムイケノシタビテシツルナクニオボツカナキキミヲケフミツル

鴨
カモ

玉藻刈井提乃四賀良美薄可毛。戀乃余杼女
タマモカル山城相木郡井デノシガラミウスケドモ（シガラミウスケ、米外ヘモリテイフトナク水尾ナル方ノ水ヲルクヨドム、恋心ノムチニヨドムニ叱ス恋心ヲヤリスゴセヨヨドム）天武紀ハサミ紀六和歌ヲ上ト屑

留吾情可聞
トドメワキモコガカサノカリデノ（本ワサミノ山領美濃ヘ）

吾妹子之笠乃借手乃和射見野爾吾者入跡
ワギモコガカサノカリデノ（今イヌギ）ワザミノニワレハイリヌト（輪ノ宮ノ歌ノ心ニヤ）

妹爾告乞
イモニツゲコソ

數多不有名乎霜借三埋木之下從其戀去方
アマタアラヌナヲシモレギノウモレギノシタユエゾコフルユクヘ

不知而
シラズテ

秋小野ノ木草モ草モ物ヒトヤ夜心ニクク人雲ハ白見由ノ誤ニ近江

冷風之千江之浦回乃木積成心者依。後者難
アキカゼノチエノウラワノコヅミナスコヽロハヨリヌブチハシツゴキイヤ（ツヅキイヤ）ニラ

寄鴨
カモ

井提和名ニ田ニ水ヲセキ入ル也和名堰塞（セキ）水（ミヅ）ヲトヾムハ川ノ水ヲヨケルナリソレヲ俗ニセキテスヘテヲミヅヲトヾムト云名ニテスルヲ井ヒキト云歟

ワサミ　木ニ高市皇子ノ死ヲイタミヘタリ常ニ人丸ノ寄ニミヘタリ常

寄野

寄木糞（ツミ）

寄埴木

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

子ド

不知
レラヘナゴ
白細砂三津之黄土色出而不云耳衣我戀樂
（今も此辺ハヨキ赤土ヲ出セリ）（三ツノハニフノイロニモデテ）（色ヲ云ニ為バカリ）
ハ
者
カゼフカヌ　タラニ　ナミタツナキナ　ヲモワレハ　キフカモ　アフトハ　ナレニ
風不吹浦爾浪立無名乎吾者負香逢者無二
（連ルルニ無名ノ二ツ）
一云女跡念而
（同ト云ドモ）（ミナト）（オモヒツヽモ）
スガ　レヽ　（オモヒツヽモ）　ノ　ウラニ　ヨル
酢蛾島之夏身乃浦爾依浪間文畳吾不念君
（オキカウマフケテ）
アフニ　ノ　ウミキキツ　レヽヤヽ　（オキカウマフケテ）　ワカ　モフイモカ　コトノコゲヽ
淡海之海與津島山與間經而我念妹之言繁苦
（ラムヲ）　フルトホツ　オホウラニ　ヨルナミノヨセ
霰零遠津大浦爾縁浪縦毛依十方憎不有君
（アフコト）（人ハトカク・イフトモ）

（八雲ニ近江トハ如何思ヒケン）

木海之名高之浦爾依浪音高鳥不相子故爾
（筑紫ノ海）
奥波邊浪之来縁左太能浦之此左太過而後
（未橋ノ花ヲ中サダノスゲニノ序）
將有
キミツナミヘ　ナニノ　キ　ヨル　サ　ダノ　ウラノ　コノ　サ　ダ　スギテ　ノチ
牛窓之浪乃鹽左猪島響所依之君爾不相鴨
（ヨセテ）
白浪之来縁島乃荒礒爾毛有申物屋戀乍不
（アリ）
ハ　（アリシ長良ヲモシタヒヨセ又如何ホド戀テモカヒナキヨリヲ兼テ云ハ彼ヲ疎ノ様ニアラヌ心ヤ）
ズ
有者
レホニテバ　ニノ　ナハ　ニ
盡滿者水沫爾浮細砂裳吾者生鹿戀者不死
（或心ノウカテソヲルラム）（ナリカシテハ頼ニナリテアレ、）（ウカブニナゴニモ）（ナルカコヒハ）（レナズ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

テ而
スミノエノ キシノ ウラミ ニ シキナミノ
住吉之 埴師乃浦箕爾 布浪之
カモ
得
カセヲ イタミイタブル ナミノ ヒマナクモ 私
風緒痛甚振浪能 間無吾念君者相念濫香
キホトトモノ ミツノ シラナミアヒタナ ヒマモカ ナク
大伴之 三津乃白浪 間無我戀良苦乎人之不
津國
知久
キホブネノ タユタフ ウミニ イカリ
大舩乃 絶多經海爾 重石下
才 重石ヲ受
何如 爲鴨吾戀將
ム
止

新勅雜四 ミミヘズ不知 ひとしれずカナ
新千恋三 ミミヘレドズ 立つ浪しかぶレドズ
續後拾恋一 ミミヘズ不知

ミサゴ 井ルキキ ツアリ ヨルナミノ
水沙兒居 與麁礒爾 縁浪往方毛不知。吾戀久
ハ
波
オホブネノ ニモ トモモ ヨルナミノヨルトモワレハ キミカ
大舩之 舳毛艫毛 依浪依友吾者君之 隨意 任意
オホウミニ タツラム ナミハ コフラク ヤムトキ
大海二 立良武浪者 間將有公二 戀等九止時
モ ナシ ヒマモアラム キミニ コフラク ヤムトキ
毛 梨 間毛有公二 戀等九止時
シカノアトニ テ ヤクレホノ カラキコヒヲモ ワレハスル
牡鹿 海部乃火氣 燒立而 燎盖乃辛戀毛吾爲
カモ
鴨
右一首或云石川君子朝臣作之

ナカ〳〵ニ キミニ コヒズ ハ ヒラノウラノ ア ナラヾレシ。タヾ
モ カリツヽ、

藻刈管

或本歌曰中中爾君爾不戀波 アミノ ウラノ ア
ヘラヾレシ。タヾモ カルカル

部爾有益男。珠藻刈
スベキトル アヾ ノ

鈴寸取海部之燭火外谷不見人故戀比日
ミナトイリノ アレワケシ ブ子サハリオホミ ワガオモフキミニ ヒトユヘニコフルコノゴロ

浜入之葦別小舟障多見吾念公爾不相頃者
カモ

鴨

海上ノ平ラナルヲ庭ノ如ク云心乎

ニハキヨミオキベ ユキイヅルアヾブ子ノ カゲトルヾ ナキコヒモスルカモ

庭浄奥方榜出海舟乃執楫間無戀爲鴨

味鎌之塩津 三之百鎌ハ釜ノ塩トツク 今按所云未勘国ノ内也
トノ八釜ノ塩津ニハソラヨメミテコハ未ダ四ニヨメルアカヾミノ
井郡ニ塩津ト云ハソラヨメルミテコハ未ダ四ニヨメルアカヾミノ
ハミノ佐ヲ町用乎但塩津ニ釜ノヨメルハ堤中納言物語ニヨレバ
ツヽノ条ニカハクナルアヲミナ ニテモ 鍋釜ノ数ハ昔ヨリ近江ノ名物
トセルニハ 師説ノ処〳〵ニカハ
ミミハ塩焼ノ事ニ 師説ノ処〳〵ニカハ

不相将有八方

オホフ子ニ アレニ カリツミテ ミヽニ ヤドヲ ナド云心ニ通ヲ乎

大舟艤荷刈積四美見似裳妹心爾乗來鴨
ハイマヤデ ニ六帖 ニ 北キフ子ヲタヾタベノリニ イモカコヽロニ ノリニケルカモ

驛路 和名 唐令 延喜式ニ竹 出羽国驛馬越後国驛馬等ノ

吾妹子不相久。馬下乃阿倍橘乃蘰生左右
自此以下五首寧楽陳思 ワギモ コニアハテ ヒサシモ ヤ 味物ト云説ヨシ 師説ノ処〳〵ニカハ アベ タチバナノ コケルカモ ヌマデ
又立花和名出花近 テクルカモ天拓
花イヤヂミヽヲ馬下 アヾ ナノ コケルカモ ヌマデ
ムニ ニヤトヲニヘ

荒礒松我乎待兒等波
須佐乃入江 或云枕津ノ 近江ニ

夫木 アヲルヤノ入江ノモリヌニオリ久ノ田子ノ袖モヌルヽ八
続万 冬クレハスサノ入江コモリヌモ
続拾冬 夜ヲサムミスサノ入江ニ立千鳥 夫木アヂムラスサノ入江ニ住鴛ノ
続拾恋二 凡アラキスサノ入江ニ浪越テアラキナキ迄ヌレヽ袖哉
続後拾恋四 ミサゴ居ルスサノ入江ニ満ル水ノ

但一耳

ワキモ コ ヲキツカノヘノ ナヒキ 子 ブワレハ
(菟餅里 仁徳紀十五年八津田ノ名ハ津国ノ水室ヲヨメル闘鶏野ト混ズベカラズ)

遠能騰合歡木吾者隠不

(ナヲ木ノサナビケバ 蔦ナンシ ヒヌ 足カルヽコラヲヌ トハツク)

都賀野 神功紀仁徳天皇世八年 佐伯部底釈日本紀ニ摂津国ニ
凡土記云雄伴郡 今先帝田部郡ニ 摂津国ニ
ノ木ハ人迷フラム

中中二君二不戀者牧（枚仲夫木雑ヲ并本ニ「キノフラ」）浦乃白水郎有申尾玉（物モ不思メ）

藻刈管

或本歌曰中中爾君不戀波留鳥浦之海部爾有益男。珠藻刈（談儀ノアニ俾乎ノ二個俾ト脊伊勢ニモ有テ和ニ嗚呼見俾ト脊）

鈴寸取海部之燭火外谷不見人故戀比日

渕入之葦別小舟障多見吾念公爾不相頃者

鴨（海上ノ平ニトノ延ノ如ク云心乎）

ニハキヨミオキベ ユキイヅルアマブネノ 定浮奥方撈出海舟乃執梶間無戀爲鴨

（師云本條衛門集ニ今モ津ノ浦ニ業処ヲ遥ニ名ノラルルトアリ）（釜ハ堰樋ナトノ如キ物ナルベシ味釜ノ堰トヅク）（自此下五首寄陳思ノ立花初名出花立花ノ子三之云鳥下ニモ同ト云ニヘアハ端ノ心ト）（此下五首寄海中ノ又寄舟）（拾遺四 人丸 ワカモフ人ニアハヌ比カナ）（ヲヅダ 海濱 日本紀）（ヲヅダ 早馬 日本紀）（木高首 合歓木 光俊 山カミノヨリヨブトヨメシカエテカアノ木ニハ人迷フラム）

味鎌之（近江国蒲生郡）鹽津乎射而水手舩之名者謂手師乎（水手ハ舟ヨケ物ニハ体ヲ以用ニ舟名ニヨスル乎 帆縄破縄ナド）

不相將有八方

大舟爾葦荷刈積四竟見似裳妹心爾乘來鴨

驛路爾引舟渡直乘爾妹情爾乘來鴨

吾妹子不相久。馬下乃阿倍橘乃灘生左右

荒礒松我乎待兒等波

時乃徃渚沙乃入江之（紀伊国須佐神社）

但一耳

吾妹兒乎聞都賀野邊能蘇合歡木吾者隱不（菟餓野 神功紀九年ニ徳紀十五年ニ津国ニ水室ヲヨメル闘鶏野ト同ジカラズ）（モシ木ノ中ヨリ出ヅレバ蔭ナシ）

捨悉曲　ヨミ人不知

新勅恵二

自此以下世二首寄草陳思

スマ　ナク　ネモヘハ
得間無念者
ナミマ　ヨリミユル　コジマノ　ハマヒサ
泊間從所見小島之濱久
キヒサシク　ナリヌ　キミニ　アハズ
木久成奴君爾不相
シテ
四手
アサガホハ　カハベノミヲノ
朝柏閨八河邊之小竹之眼
（源氏ト云ル是ナリ）　（ウハ）　（ヌ）
エ（名）　（ケリ）　（ヌミ）
見來
アサヂ　ハラカリシメサシテ　ソラコトモ　ヨセテ
淺茅原刈標刺而空事文
（カリモキリ淺茅原ニ刈尽スヘキシルシカシ女ヲシハシ留ムルハ空言也）
ヤタム
所縁之君之辭鴛鴦
ツキクサノ　カリテシナノチアルヒトヲ　イカニシリテカ　アハム　トイフ
月草之借有命在人乎何知而庵後毛將相云
（人ノ云ヨセレン）
ヤタム
將待

三カサハ蓋ノ延喜式第七第主殿式

ネホキミノ　ミカサニ　ヌヘル　アリマ
王之御笠爾縫有在間
スガノ子ノ　子モゴロイモニ　コヒセ　ツラ
菅根之懃妹爾戀西益
ワガヤ　ドノホ　タテフルガラツミハヤレ
吾屋戸之穂蓼古幹採生之實成左右二君乎
ニヤタム
志將待
アシビキノ　ヤマサハヒグヲ　ツミユカム　ヒ　タニモ　アハム。ハヽハ
足檜之山澤回具乎採將去月谷毛相將母者
（ホタデハ冬モアリ然レハ名ガフモアルベシ　ハヤレハ古今ノ山高シ人モスサメ採ルイメナワビソ秋ミハヤレナドノ心歟）
セムト　モ
責十方
ネクヤマノ　イハモトスゲノ　子　フカクモ　キホ、ユルカモ。ワガオモヒヅマハ
奥山之石本菅乃根深毛所思鴨。吾念妻者
アレガキノ　ナカノ　ニコグサニ　テ　ヒト
余故余漢我共咲爲而人

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

捨雲　ヨミ人不知

新勅恵二

自此以下世二首寄草陳思

ス　下ナクモヘハ

得間無念者
ナミマヘヨリミユルコジマノハマヒサ　キヒサシクナリヌキミニアハズシテ

汲間從所見小島之濱久木久成奴君爾不相

四手
アサガヘハネルヤカハベノミヲバヤ

朝柏閏八河邊之小竹之眼笑思而宿者夢所
（石ノ誤ニテアラン）　（源氏ト云ヒ流レシ歟今ハ字水ナト三當リテヒサレヤウニナリシヤウニモ）

見来
アサヂハラカリシメサシテソラコトモヨセテケルキミガコトヲシレ

淺茅原刈標刺而空事文所縁之君之辭鴛鴦
（カリモ年経茅原ニ刈尽スヘキシメカシクハ空言也）　人ノ云ヨセシ

將待
ツキクサノカリテルヒトヲイカニシリテカノチモアハム

月草之借有命在人乎何知而庵後毛將相云
（トイヒキフ）

三カサハ蓋ノ延喜式第七巻主殿式

スケアリツヽミレド　コトナキワギモ

王之御笠爾縫有在間菅有菅雖看事無吾妹
スガノ子ノ　子モゴロイモニコヒセツヽ　（猶誤リ）

菅根之懃妹爾戀西益卜思而心不所念息
ワガヤドノホタデフルガラツミハヤシ　（虚ノ誤）

吾屋戸之穂蓼古幹採生之實成左右二君乎
（ホタデハ冬モアリ然レドハヤシハ古今ノ山高シ人モスサメ又採ルイメクナワビソ秋ミヤサレドノ心乎）

志將待
アシビキノヤマサハヒグヲツミユカムヒタニモアハム。ハヽハ　（片ヒグ）

足檜之山澤回具乎採將去月谷毛相將母者
（個ノ誤ニテアラン）　烏芋ノ小キヲ

黄十方
キクヤマノイハモトスゲノネモコロニフカクモ　（思ニ入ルヽ）

奥山之石本菅乃根深毛所思鴨吾念妻者
アシガキノナカノニコグサニヨカニワレトヤミシテヒト

蘆垣之中之似兒草。爾故余漢我共咲爲而人
和草ニ之文花アキ物ノ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

續後拾遺ニ見ユ
コヒソアラバ

ニ レラル 十
爾所知名
クレナヰノ アサハノノラニ カルカヤノ ツカノ アヒタモ ワレウスルナヤ
紅之淺葉乃野良尓苅草乃束之間毛吾忘渠
（卅一カテツカヌルニヨル 我宿 ラス ワスラハス私）
（武藏國入間郡麻羽安佐カ乙尼信濃ヘベシ）
菜
イモガタメイノチノコサリ カリコモノ キモヒミダレテ レヌベキモノヲ
爲妹壽遺在苅薦之念亂而應死物乎
ワギモコニ コヒツヽアラズ ハ カリコモノ オモヒミダレテ レヌベキモノヲ
吾妹子爾戀作不有者苅薦之思亂而可死鬼
乎
ミ津國ノ イリエノコモヲ カリニヨス コソワレヲ バ キミハ キモヒ
三島江之入江之薦乎苅爾社吾乎婆公者念
タテタリケレ
有來

コチタキニ兒ノ君人言シテイタムト思ヒシ心ニ用ヒルトスルコトノ又戀テイタムホドニ長皇子ノ哥ニヨリ君ニコラレンカトテ戀テイタムニハ非ズ

續後撰旅　人丸

アレビキノ ヤマタチハナノ イロニイデヽ ワカコヒナムヲ ヤメガタクス ナ
足引乃山橘之色出而吾戀南雄八目難爲名
（色ニ出トイフハ爲ニ アラハレムタメニ コヒテイタムカモ ヒトニシラレムヤ）
葦多頭乃風入江乃白管乃知爲等乎痛鴨
（葦仲間 ワガコフラクハ ナツクサノ カリノミダレテ モ キヒシガ）
吾背子爾吾戀良久者夏草之苅除十方生及
（ハラヘドモ 雜ノ字ナル）
如
ミチノベノ イツレバハラノ イツモ ヒトノ ユルサムコトヲ
道邊乃五柴原能何時毛人之將縱言
（赤ニモアリ 標茨ノ三之ハ道ノ辺ノ市トツヽケメリト）
乎思將待
ワギモコガ ソデヲ タノミテ ヌレヽバヤ カサヌキ
吾妹子之袖乎濕而真野浦之小菅乃笠乎不
（笠ハアレド不着ノ君ヲ袖笠ヲヌレント思ヒテ 津國ノ人云）
著而來二來有

（我戀ルヲノ止ンモ止ンジキモ君次第ナレバ）
（サニハ非ス思ヒアマリテトクヽクナルトノ心）

師云處各ハ似ヨリモヤヌ名ヘ

サノ奇ナルヘシ妾ノ字ヲヲワノトヨミタリ

続古恋四 ヨミ人不知 タユルコトナク

新千恋三

マノ、イケノコスゲヲカサニヌハズシテヒトノトホナヲ
真野池之小菅乎笠爾不縫為而人之遠名乎
タツヘキモノカ（真野浦ハ常ノ国ナレハ妻モ其辺ナルヘシ）（我物ト立セヌ心）

可立物可
サスタケノハ（三ヵ所ニアルヲカセコガクレコソハワレコヒメヤ）（ハカリニモ）（コモリニ）
刺竹齒隱有吾許曾不來者吾將戀八
（葉ニ借用）モ（ワガリコナクハ）

方
大和高市郡
カミナヘノ（地ノ名ナリ）アサ（雲ニ大和）サハラノ（女ニ比スレハ心ヲ得テ如此唇リ）
神南備能淺小竹原乃美妾思公之聲之知家
（アサレヌハラ）（ウタイモミワカモノ）（ニテハ）
ク
口

ヤマタカミタニベニハヘル（ヒト支）タマカツラユルトキナクミルヨシモガモ
山高谷邊蔓在玉葛絶時無見因毛欲得

ミチノベノクサフフユノニフミカラレワレタチマツトイモニツゲコソ
道邊草冬野丹履干吾立待跡妹告乞

縁後拾恋三 思ヒテカヨハントノ心ヘ

新千恋二

サナカサハソヘ字ナリ サヌルカラニハト云心ヘスサナカヲメス

タヽミゴモヘダテアムカズカヨヒ並バモチノレバクサオヒザクラ
疊薦隔編數通者道之柴草不生有申尾
（ソ生ヒテ絶ヘ通フ之ヲ卅ノ生ヒテ也）

ミナソコニオフルタマモノキヒヨイデズヨシコノゴロハカクテカヨハム
水底爾生玉藻之生不出縱比者如是而將通

ウナバラノオキツ（不分明）（オキツ）シラナミヲカルウチナビキコヤスガヌノ
海原之奥津繩乘打靡心安奴
（ナビキコヤスガヌノ）

オクヤマノサカキノハニアラレフリカツモミヂノイロニモ
奥山之賢木葉爾霰零且毛黄葉色爾毛

ワタノソコイカナルオキヲフカメテオフルモヨルキヨルモトヨモ
海底奥乎深目手生藻之。最令社戀者爲便無
（コソコヒハスヘナシ）（イトヤ深クテ）（イヤマシニモノヲ）（モトヨモ）（今）

寸
サ（入声）（子ノ通）ガニハタレトモヌレドキミガコトモチ
左寐艇齒熟共毛宿常奥藻之名延之君之言
（タキツモノナビキ）（キミガコト）

ツワレヲ
待吾乎

吾妹子之奈何跡裳吾不思者含花之穗應咲
隱庭戀而死鞘三莖原之鶏冠草花乃色二出
目八方頬聚古集云鴨頭草又作鶏冠草云
依此義者可和月草歟俗月州今音ケレバ色ニ出ト云難シ
開花者雖過時有我戀流心中者止時毛梨
山振之爾保敝流妹之翼酢色乃赤裳之為形
夢所見管
天地之依相極玉緒之不絶常念妹之當見津
生緒爾念者埜。玉緒乃絶天亂名。知者知友

玉緒之絶而有戀之亂者死巻耳其又毛不相
為而
玉緒之久栗縁乍末終去者不別同緒將有
八絲用貫有玉之緒乎弱亂哉為南人之可知
玉緒之島意哉年月乃行易及妹爾不逢將有
玉緒之間毛不置欲見吾思妹者家遠在而
隱津之澤立見爾有石根從毛遠而念君爾相
巻者

新拾悲四
以下四首寧見一

クリミヤ 景行紀
六帖ニ永久トヨメルハ
誤ニ作レルニヤ

新勅悲四ヨミ人不知

以下九首寧ろ

新十載 雑歌 人丸 全

キノクニノ アクラノハマノ ワスレガヒワレハ ソスレズトシハ フレドモ
木國之 飽等濱之 忘貝我者 不忘年者雖歷
ツグミナキノ ヒロキヲタニニ ミルレルイソガ ヘノ カタゴヒノミトシハ ヘニツヽ
木泳玉爾接有磯貝之 獨戀耳年者經管
スミノエノ ハニニヨルサフタツセ カヒニモ ナキコトモテワレコヒメヤ
住吉之 濱爾縁云打背貝寧 無言以余將戀八
方
イセノ アマニ
伊勢乃白水郎之 朝魚夕菜爾 潜云顯貝之 獨
朝食夕食ノ菜着ノ料貝ニカクラムナルベシ
アサナ ユフナ ニカヅクテアハビノカヒノ カタ
念荷指天
ヒトゴトヲ ニテレト キミヲ
人事乎繁跡君乎 鶏鳴人之 古家爾相語而遣
三之日鶏ハナルニイトト鳴トヨメルニヤ
ツラナクヒトノ イニシヘ ニ アヒイヒテ ヤリ
都
諸ノ館

アカツキト トリハナクナリヨシエヤシ。ヒトリヌルヨハ アケバアケトモ
九時等鶏鳴成縦恵也思。獨宿夜者開者雖明
キホシラミノ アライソノ スガノネモ トリアサナ キミカ モ 同中院
大海之荒礒之菅鳥朝名且 見公可問
ヌエドモヌエドモ カチツ。
鵺友念毛 金津。足檜之山鳥尾之 永此夜乎
アシビキノ ヤマドリノヲノ ナガキコノヨヲ
或本歌曰足日木乃山鳥之尾乃四垂尾乃
アシビキノ 人丸集 拾遺本ニ人丸 ヤマドリノヲノ シダリヲノ
長永夜乎一鴨將宿
ナガナガシヨヲ ヒトリカモ チム
里中爾鳴奈流鶏之喫立而甚者不鳴隠妻羽
サトナカニ ナクナル カケノヨビタテ、イタクハ ナカヌ コモリヅニハ
毛
モ

新勅應三ヨミ來知アケムトテ

サトトヨミナクナルカケ

一云里動鳴成鶏

タカ　カケヤヘニ　サワタリタカベ　ワガニツキミヲ　ニチイデム　カ

高山爾高部左渡高高爾余待公乎待將出可

モ　（鴈ヲ鴨歟）　（遠クヨリ物ヲ言ヒ心ニキミヲ）

聞

イセノウミニ　ナキケルタヅノ　（音トヨミシ心ヽ）　オトドロ　助語　モ　キミガ　音モ君カ　キコエ　バ

伊勢能海從鴨來鶴乃音杼呂毛君之所聞者

ワレコヒムヤモ　（他カ　你ニモ長ル）

吾將戀八方

ワギモコニコルニカアラム。　ヰキニスムカモノウキ子ノヤスケ

吾妹兒爾戀爾可有牟。奥爾住鴨之浮宿之安

クモナシ

雲無

アナヌベクチ　ドリシバナクシテタヘノキミガタ　ヽクライヽダアカナクニ

可旭千鳥數鳴白細乃君之手枕未厭君

問答　二十首

マユ子　カキハナヒ　ヒモトキマヽタヌヤ　モ。イツカ　モ　ミム　ト　コヒコシ

眉根掻鼻火紐解待八方。何時毛將見跡戀來

ワレシ

吾乎

右上見柿本朝臣人麿之歌。集上六葉左ノ一

累載於茲ニ也

テス　ニ　ナンレハ　ハナヒル　助　ヒ　マユカ　痒ユ　ミ　オモヒレ　コトハ　キミ

今日有者鼻之鼻火眉可由見思之言者君

ニシツノリケリ　助　（重詞ニテ古風ノ体ナリ鼻為ヽ火ト云ヒ皆ハナヲヒル）

西在來　（君ニ逢ヒテノ前相）

右二首

一

キトノミヲ　キ、テヤ　ユヒムマ　ソ　カ、ミテレツキヨモ　ヤミノミミロシ
音耳乎聞而哉戀。犬馬鏡目直相而戀巻裳太
ク　口　　　　　　　　　　　　　　　　　大

コノコトヲ　キクトニヤアラム。　ソ　カ、ミテレツキヨモ　ヤミノミミロシ
此言乎聞跡乎。眞十鏡照月夜裳闇耳見

右二首

ワギモコニ　コヒテスベナミ　シロタヘノ　ソデカヘシテ　ハ
吾妹兒爾戀而爲便無三白細布之袖反之者

ユメニミエキヤ　ソナメシラエム　古今戀二小後撰ナトニ夜ヲ久ヘヌレハナタノ要ニ見ヘトイヘリ是ソレトハ反セリ
夢所見也

ワガセコガ　ソデカヘスヨノ　テヌイナラシテ。　ニコトモ　キミニ　アリシガゴト
吾背子之袖反夜之夢有之。眞毛君爾如相有
アフゴトアラキ

右二首

ワカコヒハ　ナグサメカテシ。　ケナガクユメニモ　イニエズテトシノ
吾戀者名草目金津。氣長夢毛所見而年之
ヘヌレバ

經去禮者

ケナガクユメニモ　タニエストモ　ミエズテトシノ　ナキニ
氣長夢毛不所見雖絶吾之片戀者止時毛
エヌレト

不有

右二首

ウラブレテ　モノナ　キモヒソアマグモノ　タユタフ　コヽロワガキモハ　ナ　莫何
浦觸而物魚念天雲之絶多不心吾念魚國
ウラブレテ　モノハ　オモハジ。ミナセガハノ　アリテモ　ミツハ　ユクチフ
浦觸而物者不念。水無瀬川有而毛水者遊云
中略ゝ

物乎

右二首　処ノ名ニ七女

垣津旗開沼之菅乎笠爾縫将著日乎待爾年

曽經去来

右二首

如是谷裳妹乎待南左夜深而出来月之傾二

嘉照難波菅笠置古之後者誰将著笠有魚國

右二首

水間徃移歴月之影惜徘徊爾左夜深去家里

右二首

念人将来跡知者八重六庫共魯覆庭掃珠布益乎

右二首

時毛無加敞良未爾君社吾爾将一云戀巳呂可母

右二首

将領巾乃白濱浪乃不肯縁荒振妹爾戀乍魯居

右二首

将領巾之白濱浪乃縁

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

玉敷有家毛何將爲八重六舍覆小屋毛妹與
タマシケル イヘモ ナニ セム。ヤ ヘムバ ガニハヒタルコ ヤ モ イモト
ネムニハヘムバ
居者
オラバ
ヒトリノミクリ合セル玉ノ緒ヘ
ナバ歎
右二首

如是爲乍有名草目手玉緒之絶而別者爲便可無
カクシ ツヽアリナグサメテ タマノヲノ タエテワカレバスベ
ナカルベシタ
シタ

紅花西有者衣袖爾染著持而可行所念
クレナヰノハナニシアラハ コロモデニ ソメツケモチテ ユクベクオモホユ
右二首

警喩
十三首

紅之深染乃衣乎下著者人皆見久爾仁寶比
クレナヰノコ ゾメノ キヌヲ シタニキバ ヒトノミムマデ ニホヒ
イデム カモ（カク思フ心ニ比ス 秋物ノ衣ノ心ヲ之中ニ以テ之日ヒ）

將出鴨
（顧ミル）
コロモシモオホノアラナムトリカヘテ キテバヤ キミガ オモワスレ
衣霜多在南取易而著者也君之面志而有
カハ

右二首寄衣喩思
アヅサユミ ツカマキカヘテ コヨヒコム サヨニヒクトモキミガ オモハスラム

梓弓弓束巻易中見判更雖引君之隨意
（外ノ人トカタラヒテ云）

右一首寄弓喩思
ミヤゴ井ルスニヲルフ子ノ ユフシホヌ ミツラムヨリハ ワレコソマサメ

泉沙兒居渚座船之夕塩乎將待從者吾社益
水宮

右一首寄船喻思

山河爾釜乎伏而不肯盛年之八歳乎吾竊舞
師

右一首寄魚喩思

蓍鴨之多集池水雖溢儲溝方爾吾將越八方
止

右一首寄蓮喩思

日本之室原乃毛桃本繁言大王物乎不成不

右一首寄菓喩思

眞葛延小野之淺茅乎自心毛人引目八面吾
莫名國

三島菅未苗在時待者不著也將成三島菅笠
三吉野之水具麻我菅乎不編爾刈耳苅而將
亂跡也

清上爾洗若菜之流来而妹之當乃瀬社因目

右四首寄草喩思

如是爲哉猶大荒木之浮田之杜之

857
47

逢フハイクラカリモナキニ滝ノトドロキ落ル計リニ名ノスサマジク立コトヨトシ

ルメナラナク　ニ　神ノ名ニ引レメニ從ニシルバカリ（シテハケテ」ドンニ似タルトノ心）

標爾不有爾

右一首寄標喩思

イクバクモ　フラヌ　アメユヘヤワガセ　コガ　御ナ（名ノ立）ノ　ヨハタクタギモ

幾多毛不零雨故吾背子之三名乃幾許瀧毛

（ヘカク）ニ　ヤ逢フモ有立（ンレシ）

動響二

右一首寄瀧喩思

大荒木之浮田之杜　名勝志ニ曰郡部浮田杜下ニ曰勅撰名所和寺山城。按ニ昔茂社ノ西北賀茂川ノ西端同名有

衣内小社ニ座リ　カクレツヽヤミナムト　ノ考ヘ大和国宇智郡ニ古大荒木大知ナルニ從テ浮田ノ杜同国ナルヲ明ラメ　統後撰ニ下ツ八葉未ハリニ成ニケリ浮田ノ杜ノ五月雨ノ比　俊頼　梅接ス

上賀茂ニ浮田ノ杜リ其ツヽキニ大アラキノ森モ近シ大和ノ郡ニラツレケルニヤ

萬葉集卷第十一

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47